

高砂市高齢者福祉計画及び高砂市介護保険事業計画（第9期）

策定のためのアンケート調査結果報告書

【一部抜粋版】

高砂市

目次

調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 回収の状況	1
4. 報告書の見方	1
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果概要	2
1. 回答者の属性について	2
2. 介護について	4
3. 要介護状態になる各リスクについて	6
4. 外出について	7
5. 社会参加について	12
6. たすけあいについて	15
7. 情報収集について	16
8. 市に充実を希望する高齢者施策について	17
9. 調査結果にみる現状のまとめ	18
在宅介護実態調査の結果概要	22
1. 在宅生活の継続について	22
2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスについて	24
3. 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて	27
ケアマネジャー調査の結果概要	28
1. 業務について	28
2. 高砂市のサービスについて	31
3. 連携について	35
事業所調査の結果概要	36
1. 運営について	36
2. 介護保険サービス以外の高齢者保健福祉サービスや活動について	38
3. 介護人材について	39

調査の概要

1. 調査の目的

市内在住の 65 歳以上の人の健康状態や生活、介護の状況、介護保険に対するご意見やご要望等をお聞きするとともに、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の策定と効果評価を目的にアンケート調査を実施しました。

2. 調査の方法

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	ケアマネジャー調査	事業所調査
対象	市内在住の 65 歳以上で要介護認定を受けていない人 3,800 人（無作為抽出）	市内で在宅生活をしている要介護認定者 1,000 人（過去に要支援、要介護認定の更新、区分変更申請をされた人を無作為に抽出）	市内に所在する居宅介護支援事業者のケアマネジャー 77 人（悉皆）	市内で介護保険サービスを提供している事業所、高砂市の指定を受けている事業所 198 件（悉皆）
調査期間	令和 5 年 2 月 1 日から 2 月 28 日		令和 5 年 2 月 9 日から 3 月 6 日	令和 5 年 2 月 9 日から 3 月 10 日
調査方法	郵送による配布・回収			

3. 回収の状況

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	ケアマネジャー調査	事業所調査
配布数	3,800 部	1,000 部	77 部	198 部
回収数	3,125 部	726 部	68 部	132 部
回収率	82.2%	72.6%	88.3%	66.7%
有効回収数	3,124 部	725 部	68 部	131 部
有効回収率	82.2%	72.5%	88.3%	66.2%

4. 報告書の見方

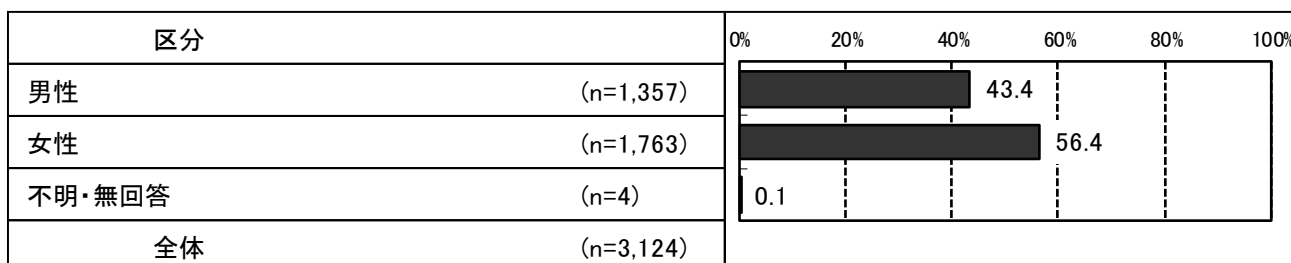
- 図表内に付加されている「n」は質問に対する回答者数です。
- 結果数値は、少数点第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100%にならないことがあります。
- 複数回答の場合、回答者数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が 100%を超えます。
- 無記入、回答の読み取りが著しく困難な場合、1 つまでの回答を求めている設問に対し 2 つ以上回答していた場合は「不明・無回答」として処理しています。
- グラフ中の数字は、特に断り書きのないかぎりすべて構成比を意味し、単位は%です。
- クロス集計内の網掛けは、クロス項目（表側の項目）ごとの上位 3 項目を示しており、数値が大きくなるに従って網掛けの色が濃くなります。
- 在宅介護実態調査の認定データによるクロス集計については、厚労省が推奨する在宅介護実態調査の自動集計分析ソフト（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社作成）を用いて、回答結果と認定データを突合・集計しています。なお、認定データが欠けている場合や無回答の場合を除いた集計となっています。

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査の結果概要

1. 回答者の属性について

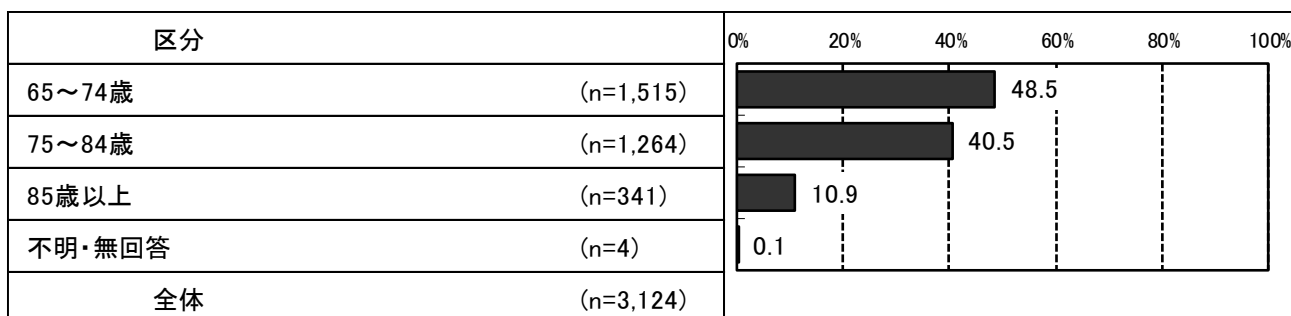
性別（単数回答）

「女性」が56.4%、「男性」が43.4%となっています。



年齢（単数回答）

「65～74歳」が48.5%で最も多く、次いで「75～84歳」が40.5%、「85歳以上」が10.9%が続いています。



○日常生活圏域別でみると、高砂、中筋は「75～84歳」、そのほかの日常生活圏域は「65～74歳」が最も多くなっています。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	65～74歳	75～84歳	85歳以上	不明・無回答
全体		3,124	48.5	40.5	10.9	0.1
日常生活圏域	高砂	317	40.1	46.1	13.9	0.0
	荒井	379	46.7	38.0	15.3	0.0
	伊保	514	51.0	39.1	9.9	0.0
	中筋	191	40.8	48.2	11.0	0.0
	曾根	419	54.7	34.1	11.2	0.0
	米田	705	49.6	40.1	10.2	0.0
	阿弥陀	401	48.9	43.4	7.7	0.0
	北浜	194	49.5	41.8	8.8	0.0

世帯類型（問1-1：単数回答）

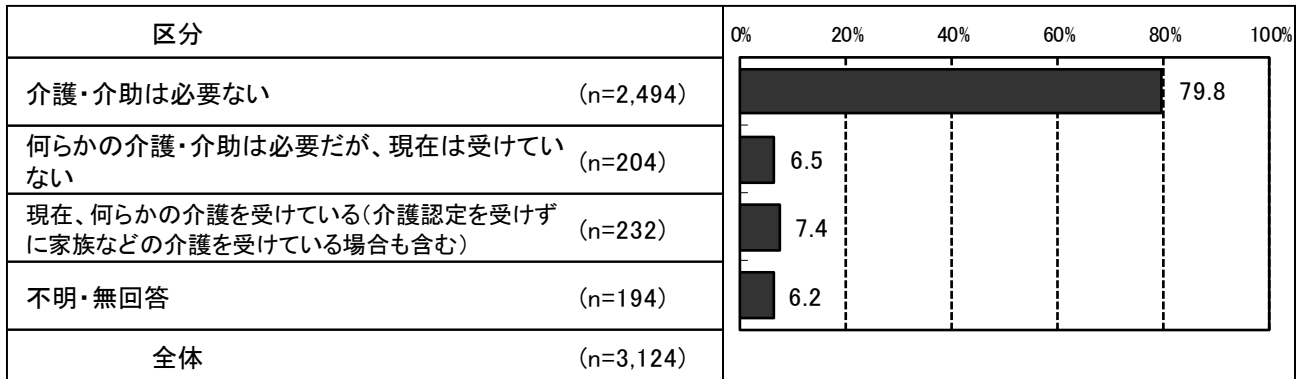
「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が44.2%で最も多く、次いで「1人暮らし」が18.3%、「その他」が16.3%が続いています。

区分		0%	20%	40%	60%	80%	100%
1人暮らし	(n=573)						
夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	(n=1,382)	44.2					
夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	(n=136)	4.4					
息子・娘との2世帯	(n=450)	14.4					
その他	(n=509)	16.3					
不明・無回答	(n=74)	2.4					
全体	(n=3,124)						

2. 介護について

介護・介助の必要性（問1-2：単数回答）

「介護・介助は必要ない」が79.8%で最も多く、次いで「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が7.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.5%で続いています。

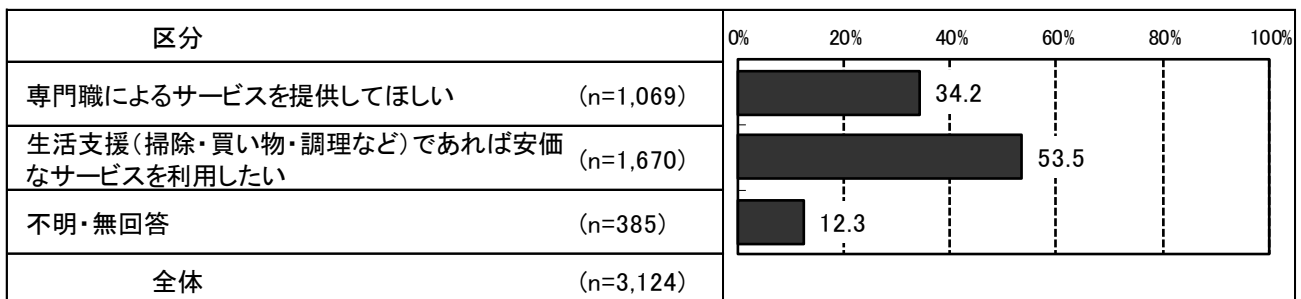


○性別・年齢別でみると、どの性別・年齢も「介護・介助は必要ない」が最も多くなっています。前期高齢者は、男女ともに9割が「介護・介助は必要ない」と回答していますが、後期高齢者になると介護・介助の必要性が高まり、男女ともに「介護・介助は必要ない」は7割となっています。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）	不明・無回答
全体		3,124	79.8	6.5	7.4	6.2
性別・年齢	男性-前期高齢者	678	90.7	2.9	2.4	4.0
	男性-後期高齢者	679	73.9	9.7	9.0	7.4
	女性-前期高齢者	837	88.4	2.4	3.0	6.2
	女性-後期高齢者	926	68.4	10.6	14.0	7.0

訪問介護（ヘルパー）サービスについての希望（問10-2：単数回答）

「生活支援（掃除・買い物・調理など）であれば安価なサービスを利用したい」が53.5%、「専門職によるサービスを提供してほしい」が34.2%となっています。

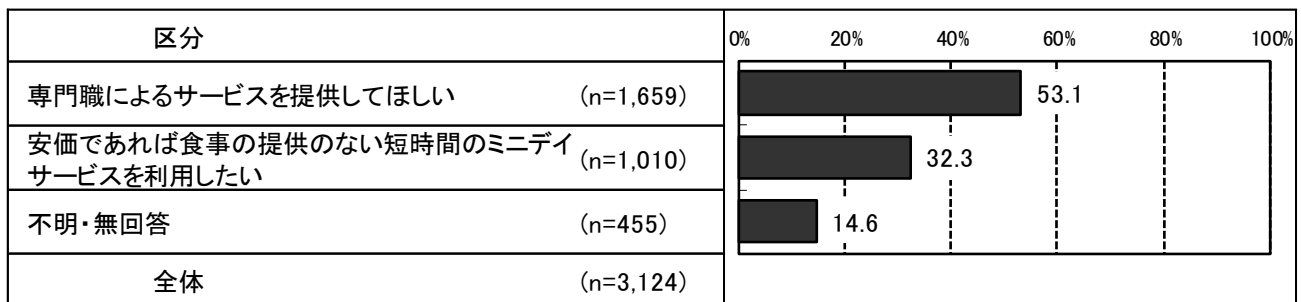


○世帯類型別でみると、どの世帯類型も「生活支援（掃除・買い物・調理など）であれば安価なサービスを利用したい」が最も多くなっています。1人暮らし、夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）は「生活支援（掃除・買い物・調理など）であれば安価なサービスを利用したい」が6割と多くなっています。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	専門職によるサービスを提供してほしい	生活支援（掃除・買い物・調理など）であれば安価なサービスを利用したい	不明・無回答
全体		3,124	34.2	53.5	12.3
世帯類型	1人暮らし	573	26.7	56.5	16.8
	夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）	1,382	32.4	56.2	11.4
	夫婦2人暮らし（配偶者 64 歳以下）	136	43.4	50.7	5.9
	息子・娘との2世帯	450	44.4	44.7	10.9
	その他	509	36.9	53.0	10.0

通所介護（デイ）サービスについての希望（問 10-3：単数回答）

「専門職によるサービスを提供してほしい」が 53.1%、「安価であれば食事の提供のない短時間のミニデイサービスを利用したい」が 32.3%となっています。

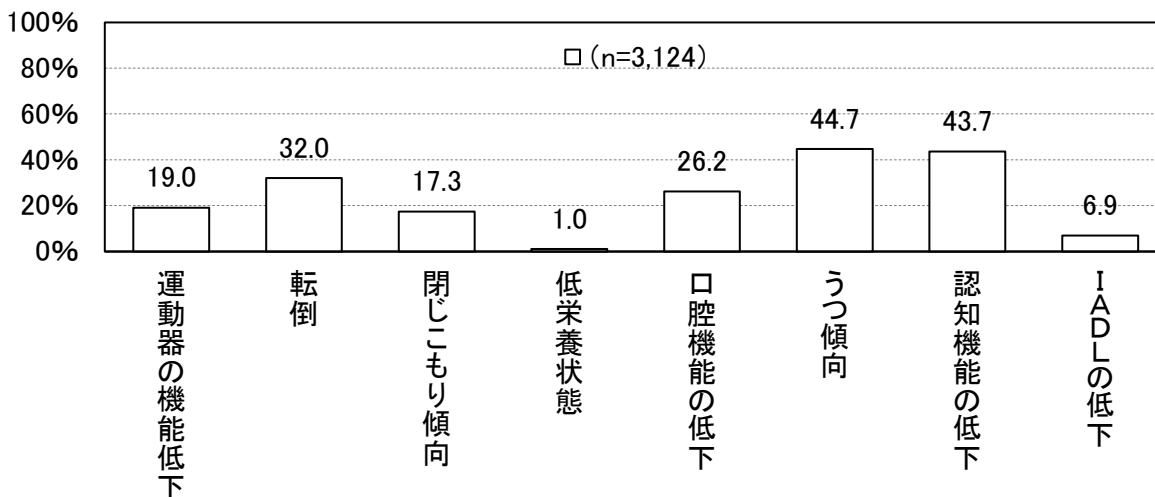


3. 要介護状態になる各リスクについて

■国の「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の手引き等を踏まえ、要介護状態になる各リスクについて以下のように整理しています。

リスク等	判定項目
運動器の機能低下	問 2-(1) ～(5) の5項目のうち3項目以上で該当する選択肢を回答した場合
転倒	問 2-(4) で該当する選択肢を回答した場合
閉じこもり	問 2-(6) で該当する選択肢を回答した場合
低栄養	問 3-(1) でBMIが18.5以下で、問 3-(7) に該当する場合
口腔機能	問 3-(2) ～(4) の3項目のうち2項目以上に該当する場合
うつ傾向	問 7-(3) ～(4) の2項目のうち1項目でも該当する場合
認知機能の低下	問 4-(1) に該当する場合
IADL※	問 4-(4) ～(8) の5項目で「できるし、している」または「できるけどしていない」を1点とし、合計値が3点以下であればリスク有り

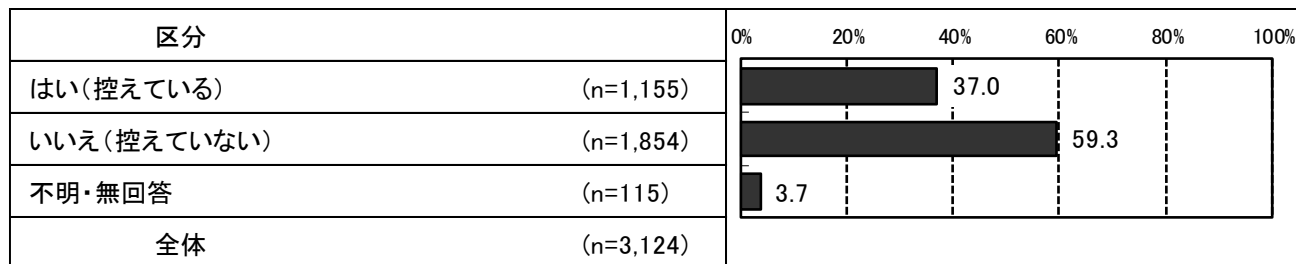
※買物、洗濯、電話、薬の管理など活動的な日常生活を送るための動作のことを、「手段的日常生活動作 (Instrument Activity of Daily Living: IADL)」といい、その自立度から、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができます。



4. 外出について

外出控えの状況（問2-8：単数回答）

「いいえ（控えていない）」が59.3%、「はい（控えている）」が37.0%となっています。

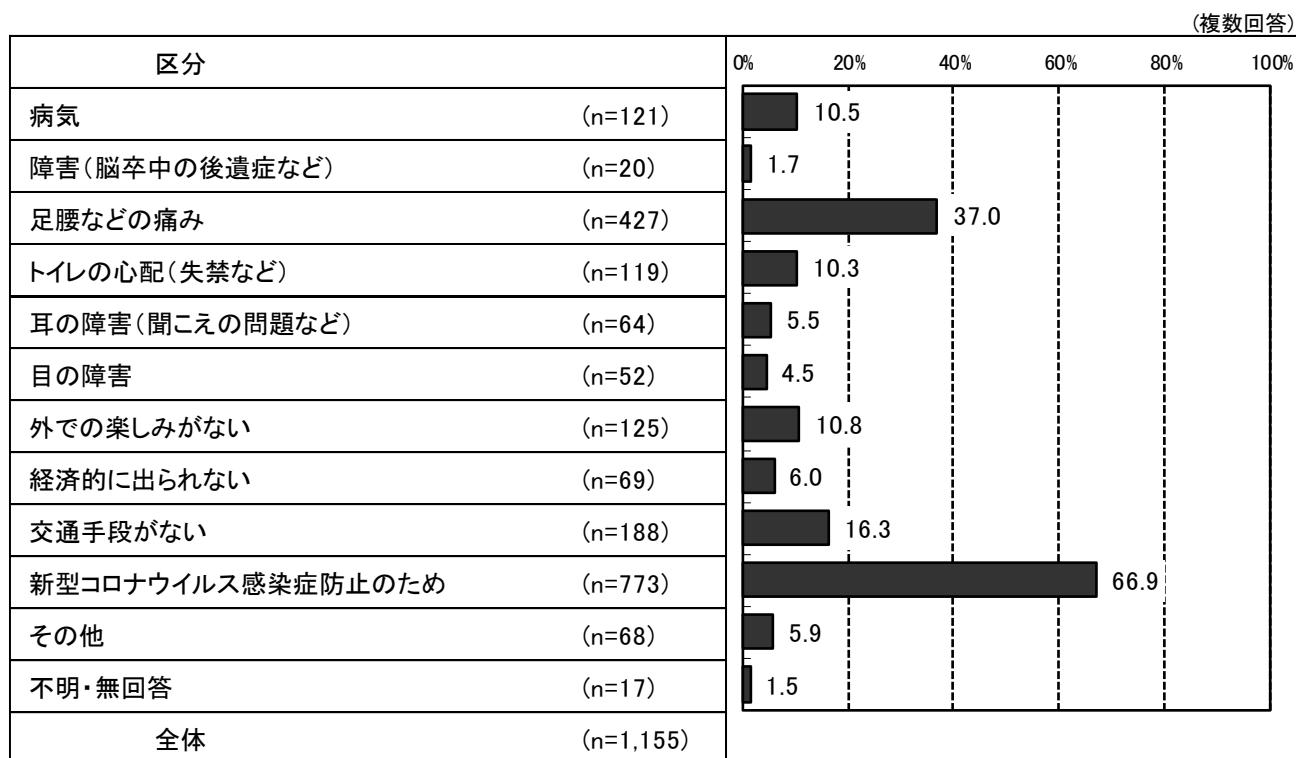


○性別・年齢別でみると、女性-後期高齢者は「はい（控えている）」、そのほかの性別・年齢は「いいえ（控えていない）」が最も多くなっています。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	はい(控えている)	いいえ(控えていない)	不明・無回答
全体		3,124	37.0	59.3	3.7
性別・年齢	男性-前期高齢者	678	22.1	75.1	2.8
	男性-後期高齢者	679	34.3	60.5	5.2
	女性-前期高齢者	837	36.1	60.9	3.0
	女性-後期高齢者	926	50.5	45.6	3.9

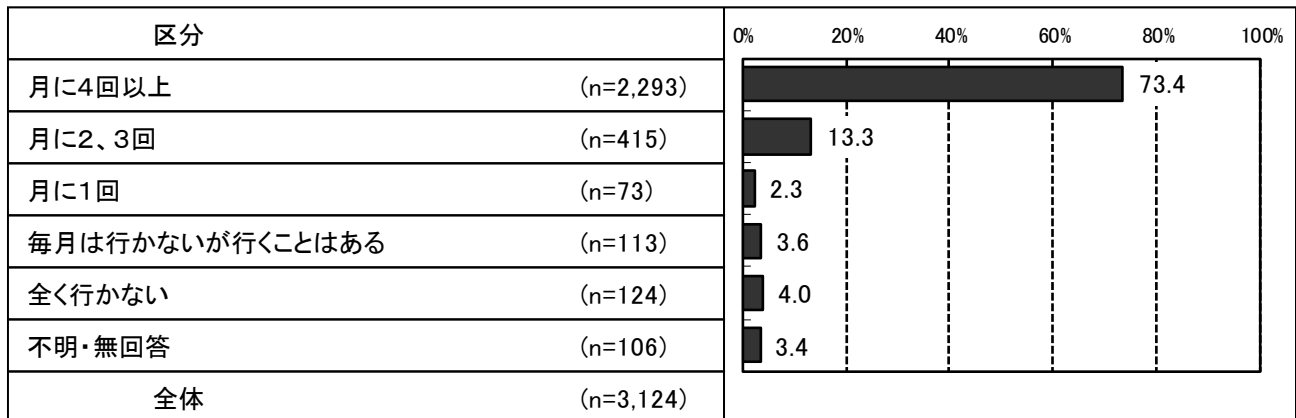
【外出を控えていると答えた人のみ】外出を控えている理由（問2-8-1：複数回答）

「新型コロナウイルス感染症防止のため」が66.9%で最も多く、次いで「足腰などの痛み」が37.0%、「交通手段がない」が16.3%が続いています。



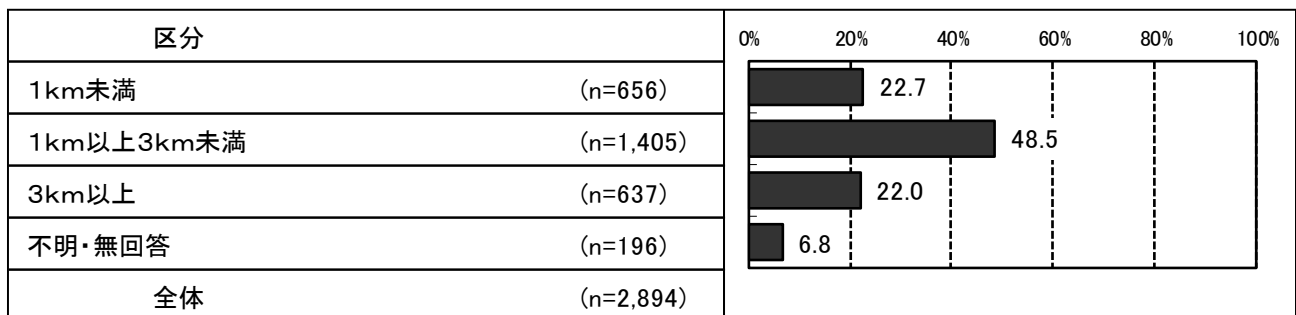
買い物（食料品、日用品、衣料品など）頻度（問2-9：単数回答）

「月に4回以上」が73.4%で最も多く、次いで「月に2、3回」が13.3%、「全く行かない」が4.0%で続いています。



【買い物に行くと答えた人のみ】主に買い物に行っている店舗までの距離（問2-9-1：単数回答）

「1 km以上3 km未満」が48.5%で最も多く、次いで「1 km未満」が22.7%、「3 km以上」が22.0%で続いています。



○日常生活圏域別でみると、どの日常生活圏域も「1 km以上3 km未満」が最も多くなっています。

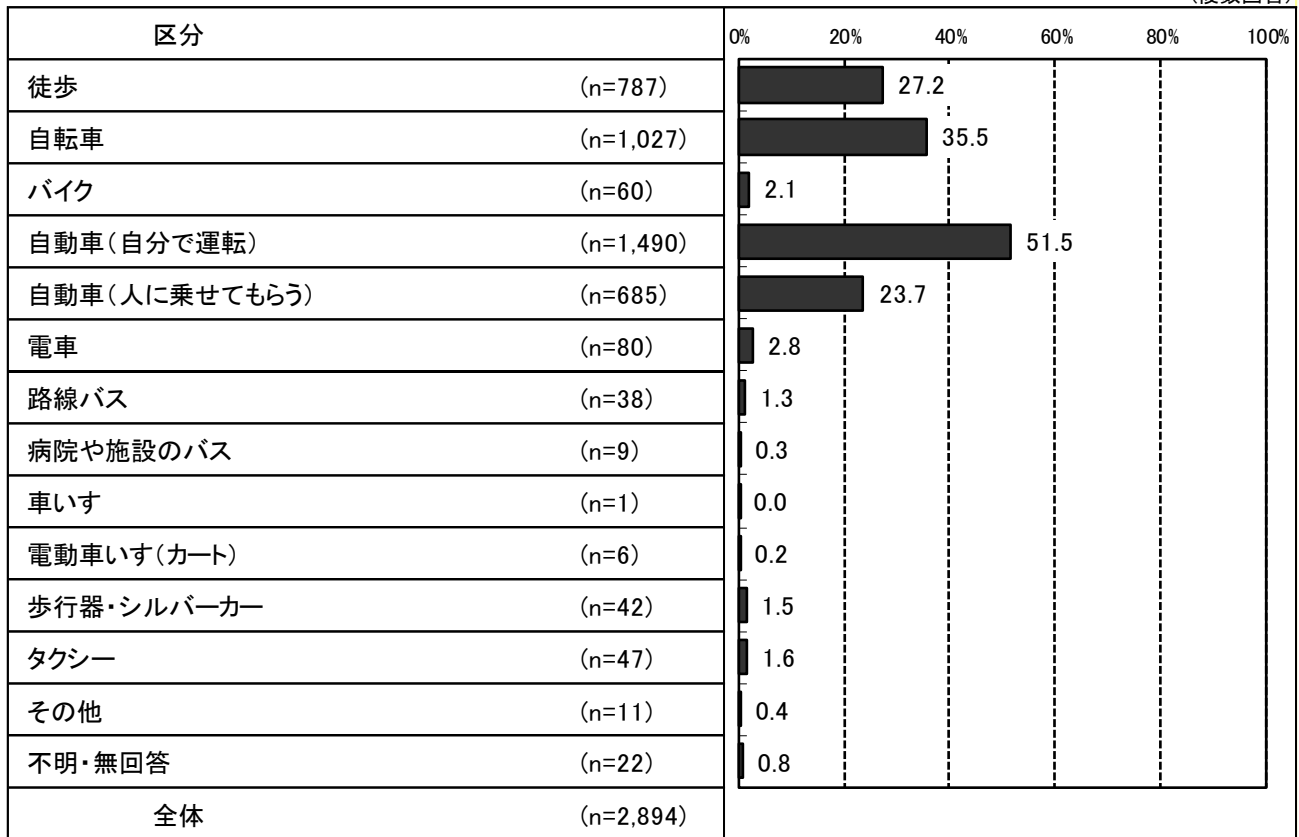
伊保、米田は「1 km未満」が3割、荒井は「1 km以上3 km未満」が6割、高砂、中筋、阿弥陀、北浜は「3 km以上」が3割以上と多くなっており、圏域による差がみられます。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	1 km未満	1 km以上3 km未満	3 km以上	不明・無回答
全体		2,894	22.7	48.5	22.0	6.8
日常生活圏域	高砂	294	15.6	46.3	31.3	6.8
	荒井	342	21.9	57.9	16.1	4.1
	伊保	483	31.7	45.3	16.4	6.6
	中筋	168	8.9	44.6	39.3	7.1
	曾根	384	20.1	47.4	25.3	7.3
	米田	660	32.9	49.8	10.9	6.4
	阿弥陀	375	10.4	49.3	30.9	9.3
	北浜	184	17.9	42.9	32.1	7.1

【買い物に行くと答えた人のみ】 買い物の際の交通手段（問2-9-2：複数回答）

「自動車（自分で運転）」が 51.5%で最も多く、次いで「自転車」が 35.5%、「徒歩」が 27.2%で続いています。

(複数回答)

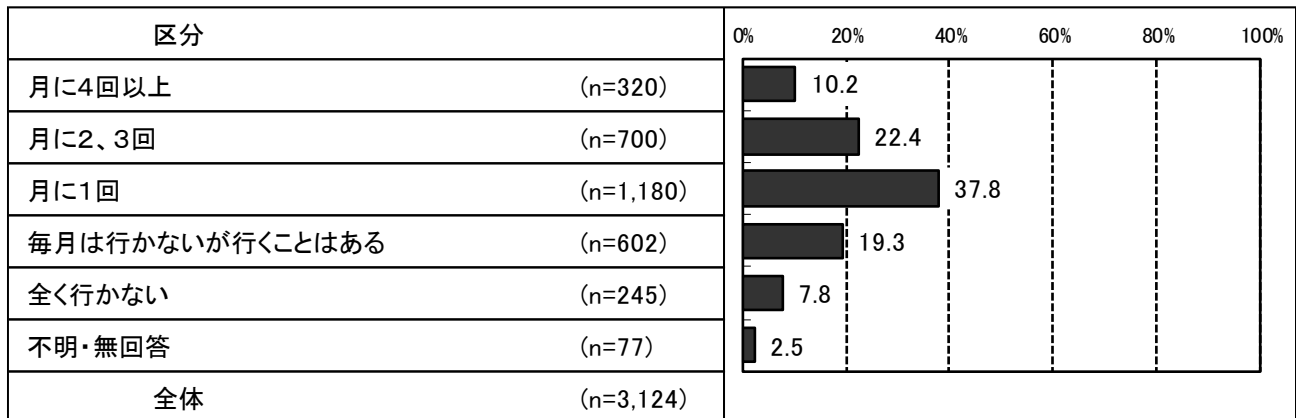


○日常生活圏域別でみると、どの日常生活圏域も「自動車（自分で運転）」が最も多くなっています。特に、阿弥陀は「自動車（自分で運転）」が6割と他の圏域に比べ多くなっています。米田は「徒歩」「自転車」が4割、荒井、伊保は「自転車」が4割以上と多くなっており、圏域による差がみられます。

		n (人数)	徒歩	自転車	バイク	自動車(自分で運転)	自動車(人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす(カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	不明・無回答
単位:% ※n(人数)は「人」																
全体		2,894	27.2	35.5	2.1	51.5	23.7	2.8	1.3	0.3	0.0	0.2	1.5	1.6	0.4	0.8
日常生活圏域	高砂	294	26.5	29.3	1.0	54.1	26.9	5.1	3.4	0.3	0.0	0.0	2.0	2.0	1.0	0.3
	荒井	342	31.3	43.9	1.8	45.3	21.6	1.8	0.6	0.3	0.0	0.0	1.8	1.2	0.3	0.0
	伊保	483	27.7	42.2	1.7	49.7	20.3	1.9	0.8	0.2	0.2	0.2	1.4	2.3	0.2	0.6
	中筋	168	17.3	25.6	2.4	50.0	27.4	5.4	3.0	0.0	0.0	0.6	3.0	1.2	0.6	0.0
	曾根	384	27.3	37.0	2.3	47.9	27.6	3.9	1.0	0.0	0.0	0.3	0.8	0.8	0.3	0.3
	米田	660	35.8	38.8	1.7	51.4	19.7	1.7	1.5	0.9	0.0	0.2	1.4	1.5	0.5	1.2
	阿弥陀	375	16.3	23.2	2.4	60.8	26.7	2.1	0.3	0.0	0.0	0.3	0.8	1.1	0.3	2.1
	北浜	184	19.6	31.5	5.4	53.3	27.7	3.8	1.1	0.0	0.0	0.5	1.6	3.3	0.0	0.5

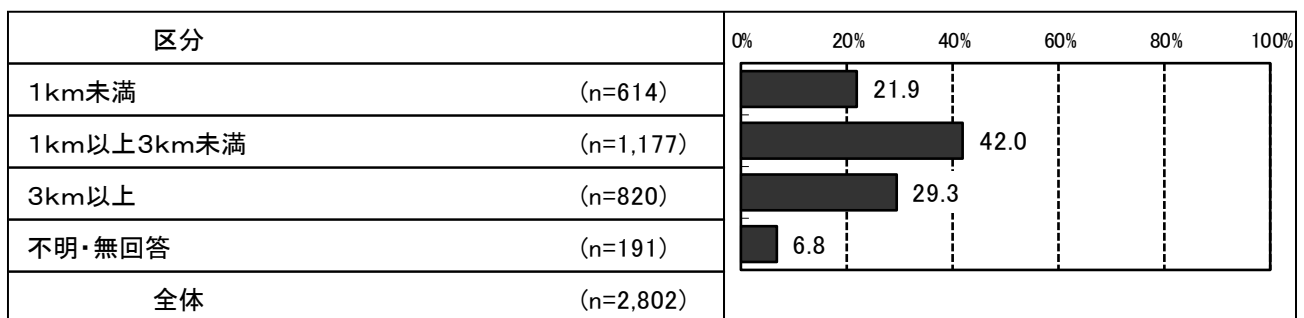
通院頻度（問2-10：単数回答）

「月に1回」が37.8%で最も多く、次いで「月に2、3回」が22.4%、「毎月は行かないが行くことはある」が19.3%で続いています。



【通院していると答えた人のみ】主に通っている病院までの距離（問2-10-1：単数回答）

「1 km以上3 km未満」が42.0%で最も多く、次いで「3 km以上」が29.3%、「1 km未満」が21.9%で続いています。



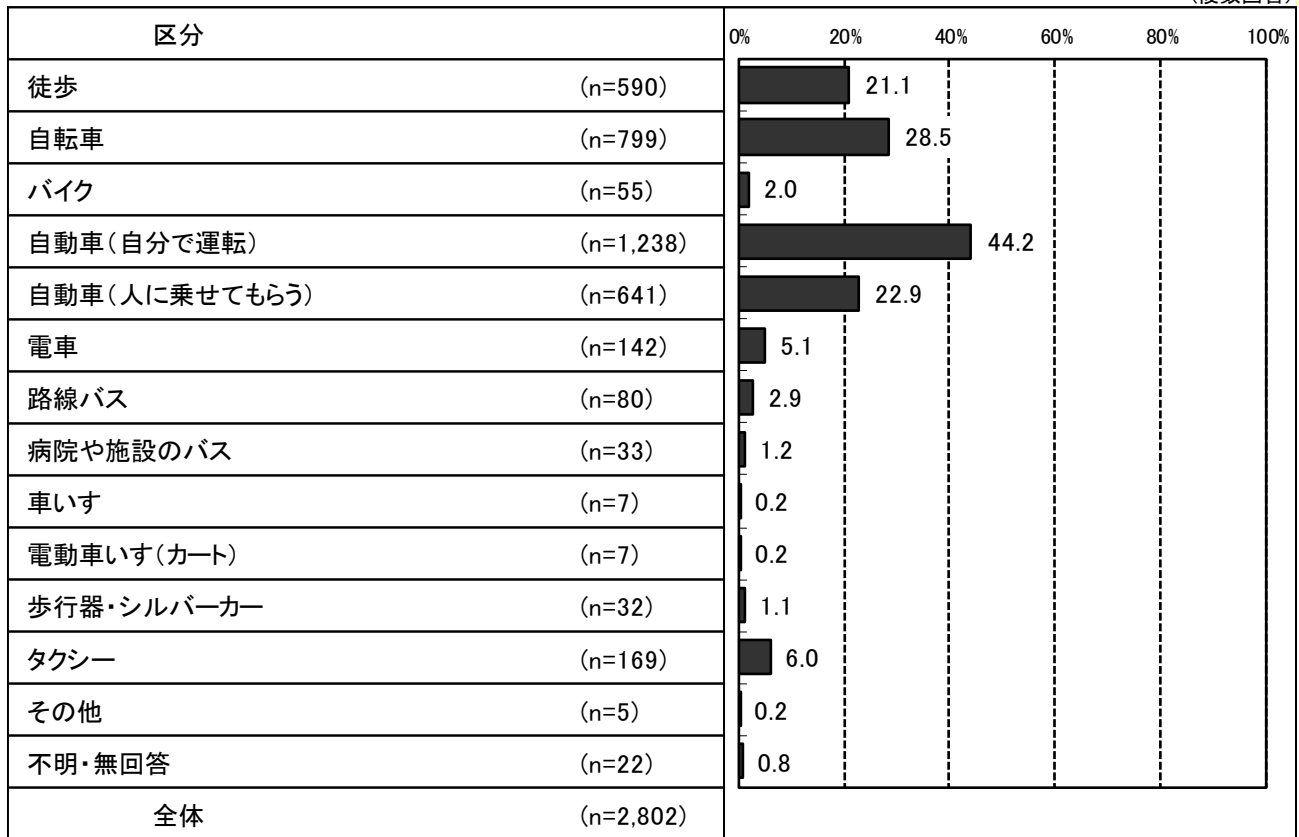
○日常生活圏域別でみると、中筋、曾根、阿弥陀は「3 km以上」、そのほかの日常生活圏域は「1 km以上3 km未満」が最も多くなっています。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	1 km未満	1 km以上3 km未満	3 km以上	不明・無回答
全体		2,802	21.9	42.0	29.3	6.8
日常生活圏域	高砂	289	30.8	43.9	19.0	6.2
	荒井	337	36.5	41.5	15.7	6.2
	伊保	462	23.8	41.3	26.4	8.4
	中筋	173	19.1	32.4	37.0	11.6
	曾根	373	10.5	39.9	42.1	7.5
	米田	633	26.7	45.8	23.1	4.4
	阿弥陀	365	9.0	40.8	43.8	6.3
	北浜	166	10.8	44.0	37.3	7.8

【通院していると答えた人のみ】通院の際の交通手段（問2-10-2：複数回答）

「自動車（自分で運転）」が44.2%で最も多く、次いで「自転車」が28.5%、「自動車（人に乗せてもらう）」が22.9%が続いています。

(複数回答)



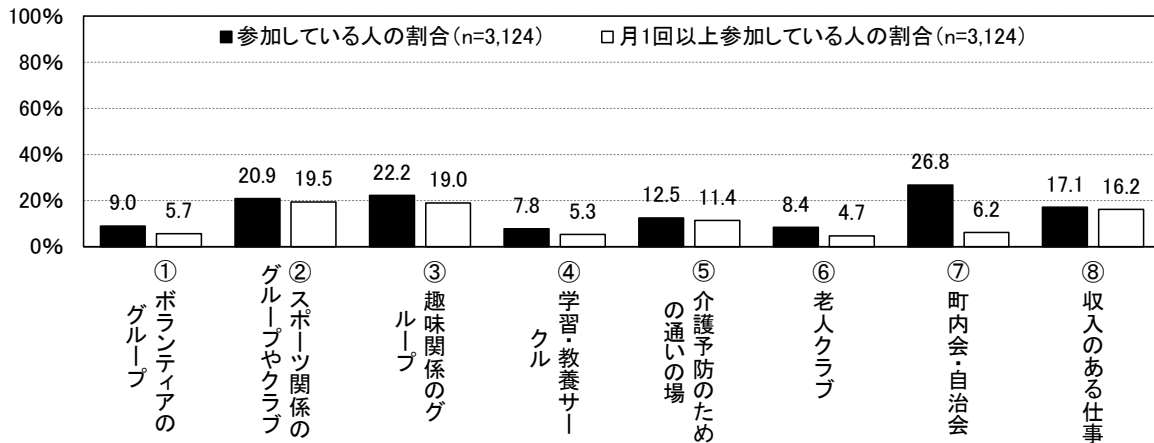
○日常生活圏域別でみると、荒井は「自転車」、そのほかの日常生活圏域は「自動車（自分で運転）」が最も多くなっています。

		n(人数)	徒歩	自転車	バイク	自動車(自分で運転)	自動車(人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす(カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	不明・無回答
単位:% ※n(人数)は「人」																
全体		2,802	21.1	28.5	2.0	44.2	22.9	5.1	2.9	1.2	0.2	0.2	1.1	6.0	0.2	0.8
日常生活圏域	高砂	289	29.4	29.8	1.0	40.1	23.2	3.8	4.5	1.4	0.7	0.0	2.1	6.6	0.0	0.0
	荒井	337	31.5	40.4	1.2	31.5	19.6	3.6	3.0	1.2	0.6	0.0	0.6	5.6	0.0	0.6
	伊保	462	18.2	33.8	1.9	43.3	21.0	5.6	2.2	1.3	0.0	0.2	1.1	5.8	0.0	1.1
	中筋	173	23.1	18.5	1.2	43.4	16.8	7.5	2.9	2.3	0.6	0.6	2.3	9.8	0.0	1.7
	曽根	373	12.1	28.2	2.4	43.7	27.6	9.4	3.8	0.8	0.0	0.3	0.3	7.2	0.3	0.3
	米田	633	25.4	29.4	1.7	46.0	20.9	2.7	3.2	1.6	0.2	0.2	1.3	3.9	0.3	0.3
	阿弥陀	365	11.5	16.2	2.2	55.6	28.8	4.9	0.8	0.5	0.3	0.3	1.4	4.9	0.3	1.4
	北浜	166	15.1	23.5	5.4	48.8	24.7	6.0	3.0	0.0	0.0	1.2	0.6	9.6	0.6	2.4

5. 社会参加について

以下の会・グループ等への参加状況（問5-1：それぞれ単数回答）

スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、町内会・自治会、収入のある仕事に参加している人は全体の2～3割程度です。ボランティアのグループ、学習・教養サークル、介護予防のための通いの場、老人クラブについては、参加している人は全体の1割程度となっています。



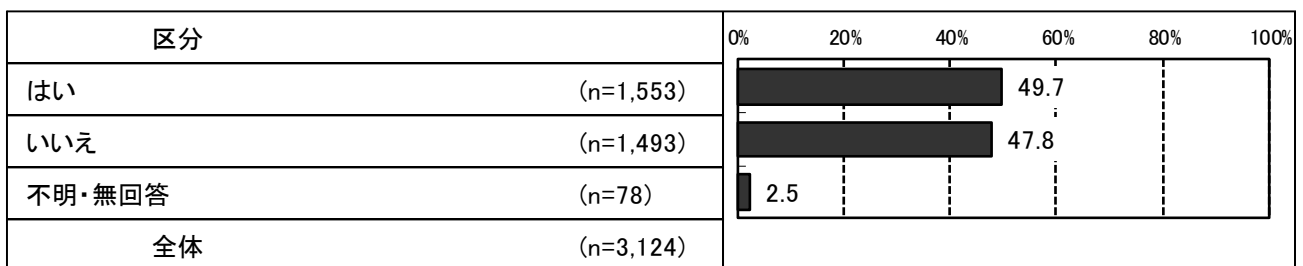
収入のある仕事の参加状況（詳細）

○性別・年齢別でみると、どの性別・年齢も「介護・介助は必要ない」が最も多くなっています。男性-前期高齢者の4割、女性-前期高齢者の2割が参加しています。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	不明・無回答
全体		3,124	9.3	5.1	0.9	0.9	0.9	68.1	14.8
性別・年齢	男性-前期高齢者	678	20.9	11.9	1.9	1.2	1.0	57.1	5.9
	男性-後期高齢者	679	4.0	2.5	0.6	1.2	1.3	72.5	18.0
	女性-前期高齢者	837	12.1	5.4	0.6	1.1	1.0	70.1	9.8
	女性-後期高齢者	926	2.4	1.8	0.5	0.3	0.4	71.1	23.4

地域の老人クラブの活動の認知状況（問4-20：単数回答）

「はい」が49.7%、「いいえ」が47.8%となっています。



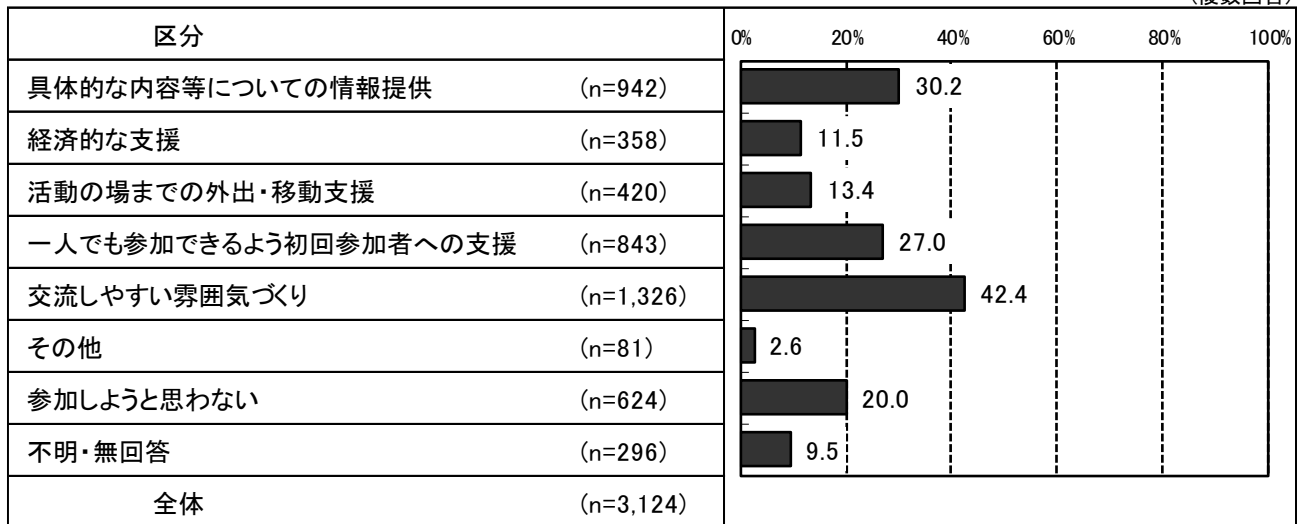
○日常生活圏域別でみると、高砂、荒井、曾根、米田は「いいえ」、そのほかの日常生活圏域は「はい」が最も多くなっています。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	はい	いいえ	不明・無回答
全体		3,124	49.7	47.8	2.5
日常生活圏域	高砂	317	43.2	53.6	3.2
	荒井	379	46.7	51.5	1.8
	伊保	514	50.8	45.3	3.9
	中筋	191	50.8	48.7	0.5
	曾根	419	45.3	52.5	2.1
	米田	705	47.9	49.2	2.8
	阿弥陀	401	60.6	37.7	1.7
	北浜	194	55.7	42.3	2.1

地域での活動に参加しやすくなる支援策（問5-4：複数回答）

「交流しやすい雰囲気づくり」が42.4%で最も多く、次いで「具体的な内容等についての情報提供」が30.2%、「一人でも参加できるように初回参加者への支援」が27.0%が続いています。

(複数回答)



○日常生活圏域別、認定該当状況別で見ると、どれも「交流しやすい雰囲気づくり」が最も多くなっています。曾根は「参加しようと思わない」が他の圏域に比べ多くなっています。

単位: % ※n(人数)は「人」		n (人数)	具体的な内容等についての情報提供	経済的な支援	活動の場までの外出・移動支援	一人でも参加できるよう初回参加者への支援	交流しやすい雰囲気づくり	その他	参加しようと思わない	不明・無回答
全体		3,124	30.2	11.5	13.4	27.0	42.4	2.6	20.0	9.5
日常生活圏域	高砂	317	31.2	11.0	14.2	27.1	45.4	2.8	17.4	10.1
	荒井	379	31.1	11.1	11.6	24.8	44.9	3.4	17.4	8.7
	伊保	514	31.5	12.1	9.9	26.3	42.6	2.5	19.5	11.1
	中筋	191	25.1	13.1	16.8	23.6	38.7	2.1	24.6	11.0
	曾根	419	27.4	11.9	15.3	30.5	40.6	1.4	25.3	6.2
	米田	705	31.6	12.2	13.8	26.5	40.1	2.7	20.6	10.1
	阿弥陀	401	29.2	10.5	15.2	27.9	43.4	3.0	18.5	8.2
	北浜	194	30.4	8.2	13.4	27.3	46.9	2.6	15.5	11.9

6. たすけあいについて

近所の人などに、金銭を支払って手助けをしてもらいたいこと（問9-2：複数回答）

近所の人困っている時に週1・2回程度、金銭をもらって支援ができること（問9-3：複数回答）

「近所の人などに、金銭を支払って手助けをしてもらいたいこと」と回答している人の割合が、「近所の人困っている時に週1・2回程度、金銭をもらって何かしらの支援ができる」と回答している人の割合を上回っている項目は、「急に病気になった時の看病」「家族の介護や世話」です。



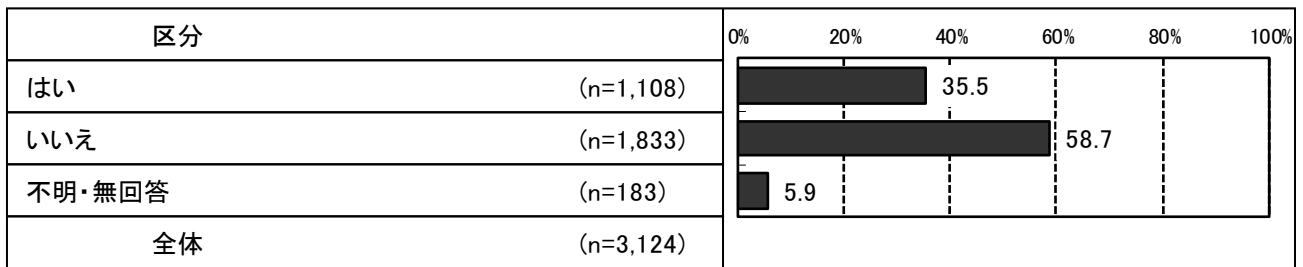
□ 近所の人などに、金銭を支払って手助けをしてもらいたいこと(n=3,124)

□ 近所の人困っている時に週1・2回程度、金銭をもらって支援ができること(n=3,124)

7. 情報収集について

SNS（Facebook や Instagram 等）やアプリ等からの情報収集状況（問4-11：単数回答）

「いいえ」が58.7%、「はい」が35.5%となっています。



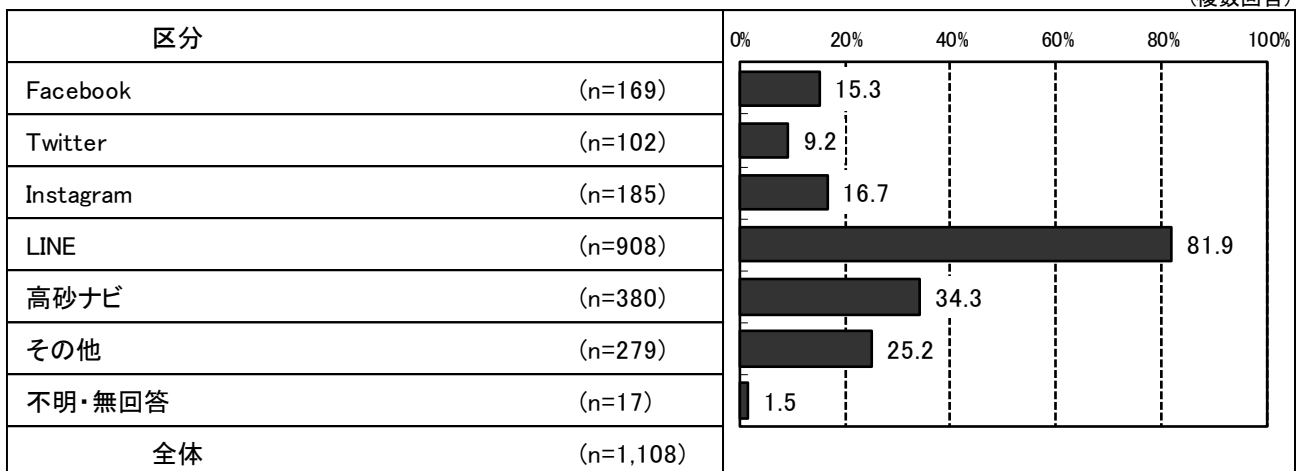
○性別・年齢別でみると、男性-前期高齢者、女性-前期高齢者は「はい」、そのほかの性別・年齢は「いいえ」が最も多くなっています。

単位：% ※n(人数)は「人」		n(人数)	はい	いいえ	不明・無回答
全体		3,124	35.5	58.7	5.9
性別・ 年齢	男性-前期高齢者	678	51.2	45.1	3.7
	男性-後期高齢者	679	22.8	70.7	6.5
	女性-前期高齢者	837	51.5	44.4	4.1
	女性-後期高齢者	926	18.8	72.6	8.6

【SNS やアプリを見て情報収集していると答えた人のみ】 普段から情報収集に使用している SNS やアプリ（問4-11-1：複数回答）

「LINE」が81.9%で最も多く、次いで「高砂ナビ」が34.3%、「その他」が25.2%が続いています。

(複数回答)

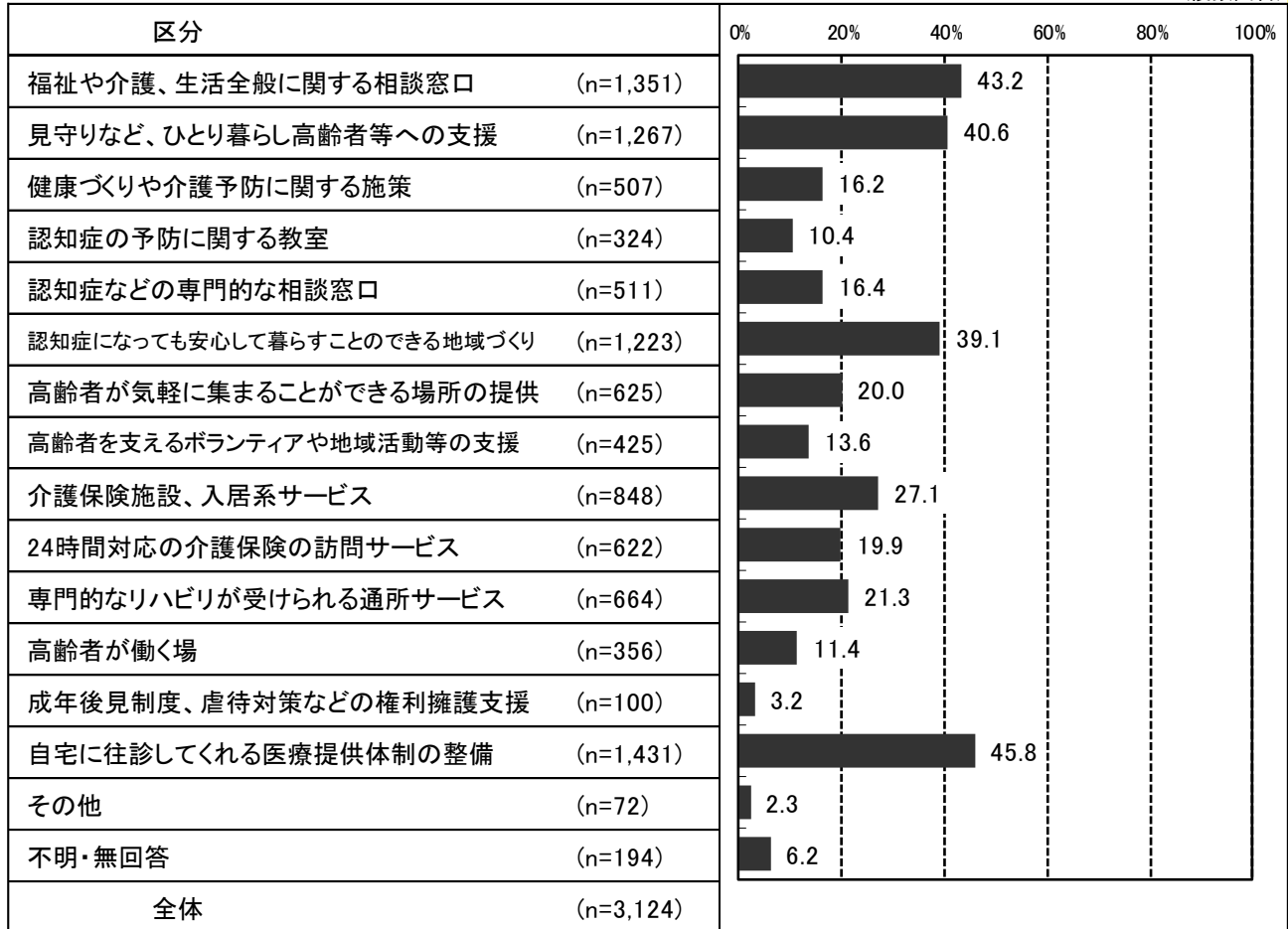


8. 市に充実を希望する高齢者施策について

市に充実を希望する高齢者施策（問 11-2：複数回答）

「自宅に往診してくれる医療提供体制の整備」が 45.8%で最も多く、次いで「福祉や介護、生活全般に関する相談窓口」が43.2%、「見守りなど、ひとり暮らし高齢者等への支援」が40.6%が続いています。

(複数回答)



9. 調査結果にみる現状のまとめ

(1) 回答者の属性・住まいについて

- 回答者の属性について、「男性」が4割、「女性」が6割と女性がやや多くなっています。
- 前期高齢者と後期高齢者は、ともに5割となっています。
- 日常生活圏域は、伊保、米田が2割、それ以外は1割となっています。
- 回答者に占める認定者（要支援1・2）の割合は1割となっています。
- 世帯類型は、「1人暮らし」が2割、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が4割となっており、あわせると6割以上が高齢者のみの世帯となっています。女性-後期高齢者の3割、要支援1・2の4割が「1人暮らし」となっています。
- 経済状況について、4割が現在の暮らしが経済的に苦しいと回答しています。
- 住まいの状況について、全体では持家が約9割となっていますが、1人暮らしは「公営賃貸住宅」「民間賃貸住宅」がそれぞれ1割程度と他の世帯類型と比べて多くなっています。今後の世帯構成の変化も踏まえ、高齢者の居住の安定性の確保について検討していく必要があります。

(2) 介護について

- 介護・介助の必要性について、全体では8割が「介護・介助は必要ない」と回答しています。前期高齢者は、男女ともに9割が「介護・介助は必要ない」と回答していますが、後期高齢者になると介護・介助の必要性が高まり、男女ともに「介護・介助は必要ない」は7割となっています。
- 要支援1・2で、「介護・介助は必要ない」と回答している人は3割程度です。また、要支援1・2で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答している人は2割と多くなっています。要介護認定を受けているが、サービスを使っていない人の状況や、介護・介助が必要な人に適切な支援が届いているかについて、検討する必要があります。
- 介護・介助が必要になった主な原因について、全体では「骨折・転倒」が3割、「高齢による衰弱」が2割と多くなっています。男性-前期高齢者は「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「がん（悪性新生物）」「糖尿病」「腎疾患（透析）」が他の区分に比べて多くなっており、特に男性への生活習慣病の予防の啓発が重要と考えられます。
- 主な介護者は、全体では、「配偶者（夫・妻）」「娘」「介護サービスのヘルパー」がそれぞれ3割と多くなっています。1人暮らしは「介護サービスのヘルパー」が5割と他の世帯類型に比べて多くなっています。
- 訪問介護（ヘルパー）サービスについての希望は、全体では、「生活支援（掃除・買い物・調理など）であれば安価なサービスを利用したい」が5割、「専門職によるサービスを提供してほしい」が3割となっています。1人暮らし、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）は「生活支援（掃除・買い物・調理など）であれば安価なサービスを利用したい」が6割と多くなっています。
- 通所介護（デイ）サービスについての希望は、全体では、「専門職によるサービスを提供してほしい」が5割、「安価であれば食事の提供のない短時間のミニデイサービスを利用したい」が3割となっています。

(3) 運動・外出について

- 運動器の機能低下リスクについて、「リスクあり」は全体の2割となっていますが、女性-後期高齢者は3割と多くなっています。
- 転倒リスクについて、「リスクあり」は全体の3割となっていますが、女性-後期高齢者は4割と多くなっています。
- 閉じこもりリスクについて、「リスクあり」は全体の2割となっていますが、後期高齢者は男女とも2割以上と多くなっています。
- 外出を控えている人は全体の4割です。特に、女性-後期高齢者は5割が外出を控えていると回答しています。
- 外出を控えている理由は、「新型コロナウイルス感染症防止のため」が7割で最も多く、次いで「足腰などの痛み」が4割、「交通手段がない」が2割で続いています。女性-後期高齢者は「足腰などの痛み」「交通手段がない」が他の性別・年齢別の区分に比べ多くなっています。

(4) 社会参加について

- 地域活動について、スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、町内会・自治会、収入のある仕事に参加している人は全体の2～3割程度です。ボランティアのグループ、学習・教養サークル、介護予防のための通いの場、老人クラブについては、参加している人は全体の1割程度となっています。老人クラブの活動を知らない人は全体の5割となっており、活動の周知が課題と考えられます。
- 収入のある仕事は、男性-前期高齢者の4割、女性-前期高齢者の2割が参加しています。一方、男性-後期高齢者と女性-後期高齢者では参加している人は1割となります。
- 地域での活動に、どのような支援があれば参加しやすくなるかについて、「交流しやすい雰囲気づくり」が4割で最も多く、次いで「具体的な内容等についての情報提供」「一人でも参加できるよう初回参加者への支援」が、ともに3割で続いています。要支援1・2は、「活動の場までの外出・移動支援」が2割と多くなっています。

(5) たすけあいについて

- 全体の9割が、何らかの心配事や愚痴を聞いてくれる人がいると回答しています。男性、1人暮らしは「そのような人はいない」が多くなっています。
- 全体の9割が、何らかの心配事や愚痴を聞いてあげる人がいると回答しています。後期高齢者、総合事業対象者、要支援1・2、1人暮らしは「そのような人はいない」が多くなっています。
- 全体の9割が、病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人がいると回答しています。総合事業対象者、1人暮らしは2割が「そのような人はいない」と回答して多くなっています。
- 全体の7割が、看病や世話をしあげる人がいると回答しています。女性-後期高齢者、要支援1・2、1人暮らしは「そのような人はいない」が多くなっています。
- 近所の人困っている時に週1・2回程度、金銭をもらって何かしらの支援ができると回答している人は全体の3割です。「近所の人などに、金銭を支払って手助けをしてもらいたいこと」と「近所の人困っている時に週1・2回程度、金銭をもらって何かしらの支援ができる」と回答している人の割合をみると、「急に病気になった時の看病」「家族の介護や世話」以外の項目で「近所の人困っている時に週1・2回程度、金銭をもらって何かしらの支援ができる」と回答している人の割合が上回っています。

(6) 健康・医療について

- 現在治療中・後遺症がある病気について、全体の8割が何らかの病気をあげています。「高血圧」が5割で最も多く、次いで「目の病気」「高脂血症（脂質異常）」が2割で続いています。
- 市に充実を希望する高齢者施策について、「自宅に往診してくれる医療提供体制の整備」が5割と最も多くなっています。
- 主に通っている病院までの距離は「1 km以上3 km未満」が4割で最も多く、次いで「3 km以上」が3割、「1 km未満」は2割となっています。日常生活圏域別でみると、高砂、荒井、米田は「1 km未満」、中筋、曾根、阿弥陀、北浜は「3 km以上」が他の区分に比べ多くなっており、圏域による差もみられます。
- 病院までの移動手段は「自動車（自分で運転）」が4割で最も多く、次いで「自転車」が3割、「自動車（人に乗せてもらう）」が2割で続いています。

(7) 相談について

- 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手について、全体では、「そのような人はいない」が5割で最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が2割、「社会福祉協議会・民生委員」が1割で続いています。男性-前期高齢者と女性-前期高齢者は「そのような人はいない」が6割と多くなっています。
- 高砂市地域包括支援センターの認知度は全体では3割で、特に男性の認知度が低い状態です。
- 認知症に関する相談窓口の認知度は全体では3割で、特に男性の認知度が低い状態です。
- 市に充実を希望する高齢者施策について、「福祉や介護、生活全般に関する相談窓口」は4割と2番目に多くなっています。また、男性-前期高齢者は「福祉や介護、生活全般に関する相談窓口」が5割と最も多くなっています。必要な支援につながるよう相談窓口の周知を進める必要があります。
- SNS やアプリ等から情報収集をしている人は全体では4割で、前期高齢者は男女とも、SNS やアプリ等から情報収集をしている人は5割となっています。SNS やアプリを見て情報収集している人の中で、最も使用しているものは「LINE」で、8割の人が利用しています。

(8) 将来について

- 将来について、「在宅介護サービスを使いながら自宅で暮らし続けたい」が6割で最も多くなっています。
- 将来希望する生活について話し合ったことがある人は全体の5割となっています。男性は、「まったくしていない」が多くなっています。

(9) 日常生活圏域の状況について

- 日常生活圏域別で年齢構成をみると、高砂、中筋は「75～84 歳」、そのほかの日常生活圏域は「65～74 歳」が最も多くなっています。
- 各リスクをみると、中筋、阿弥陀は閉じこもりリスクの「リスクあり」が他の圏域に比べ多くなっています。阿弥陀はうつ傾向リスクの「リスクあり」が他の圏域に比べ多くなっています。
- 主に買い物に行っている店舗までの距離と店舗までの移動手段、主に通っている病院までの距離と病院までの移動手段は、圏域による差がみられます。
- 地域活動について、ボランティアのグループ、介護予防のための通いの場、老人クラブ、町内会・自治会、収入のある仕事への参加状況は、圏域による差がみられます。地域での活動に、どのような支援があれば参加しやすくなるかについて、どの日常生活圏域も「交流しやすい雰囲気づくり」が最も

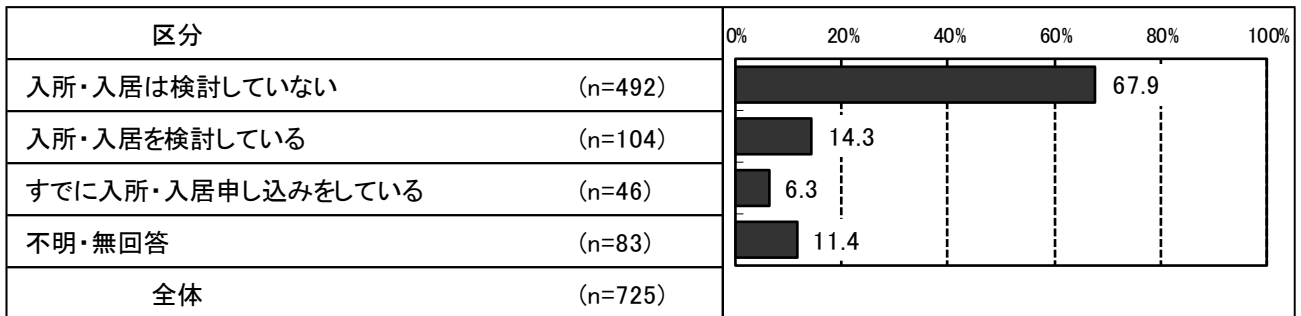
多くなっていますが、曾根は「参加しようと思わない」が他の圏域に比べ多くなっています。老人クラブの活動を知らない人は高砂、曾根で多くなっています。

在宅介護実態調査の結果概要

1. 在宅生活の継続について

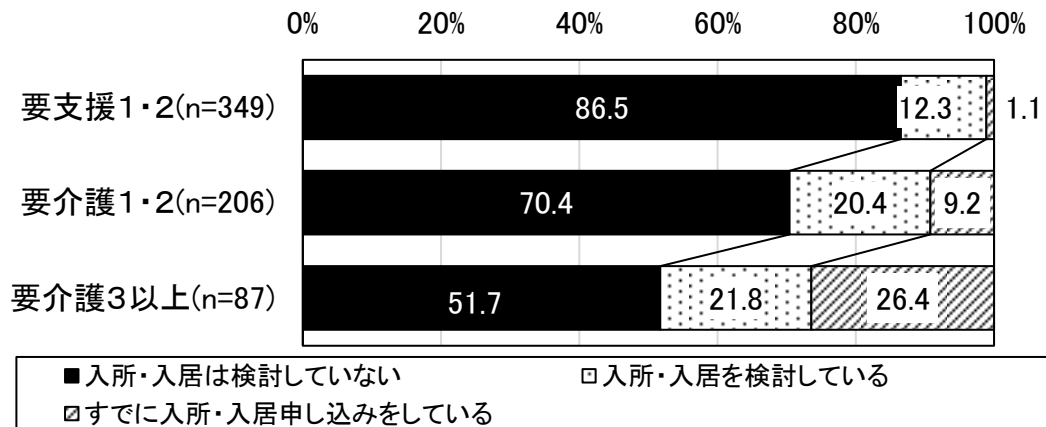
施設等への入所・入居の検討状況（問 13：単数回答）

「入所・入居は検討していない」が 67.9%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が 14.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 6.3%が続いています。



●要介護度別・施設等の検討状況

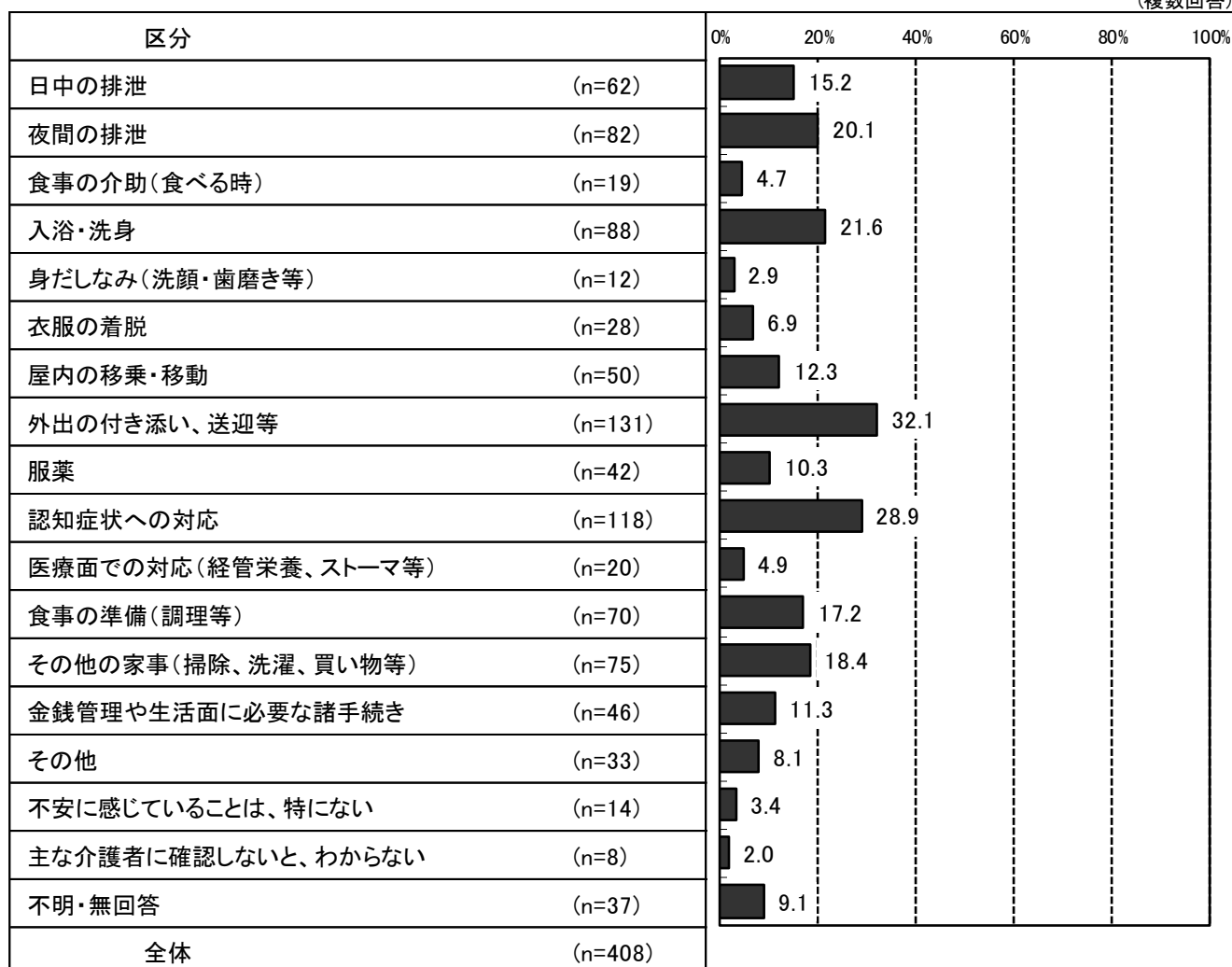
施設等の検討状況を要介護別にみると、要支援1・2では「入所・入居は検討していない」が他と比べて多くなっています。



【家族等から介護を受けていると答えた人のみ】主な介護者が不安に感じる介護（問 35：3つまでの複数回答）

「外出の付き添い、送迎等」が32.1%で最も多く、次いで「認知症状への対応」が28.9%、「入浴・洗身」が21.6%で続いています。

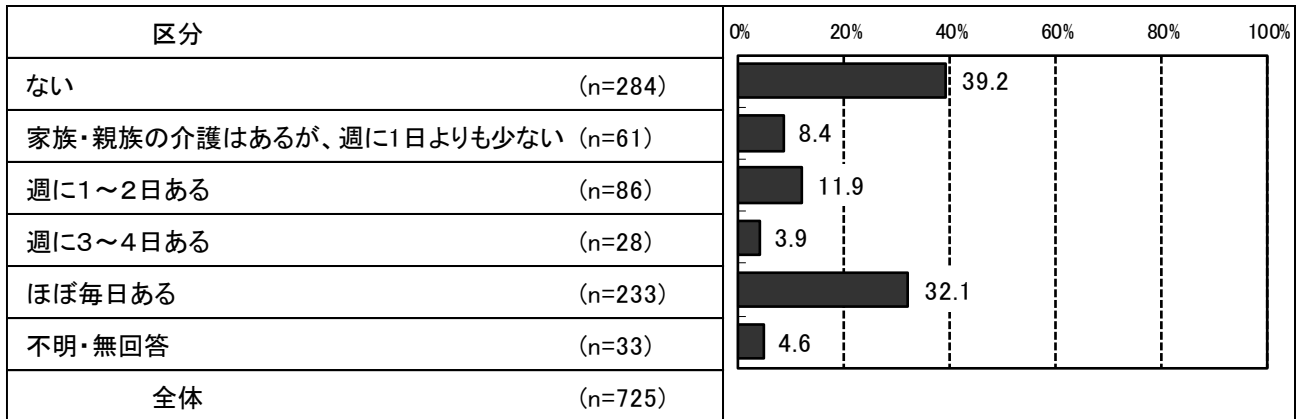
(複数回答)



2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスについて

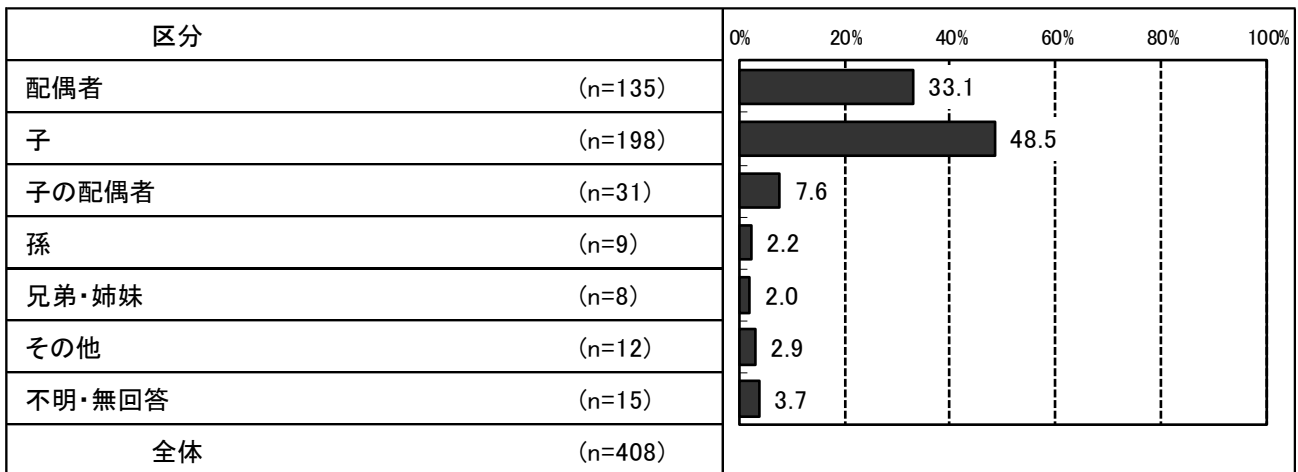
家族等からの介護の状況（問3：単数回答）

「ない」が39.2%で最も多く、次いで「ほぼ毎日ある」が32.1%、「週に1～2日ある」が11.9%が続いています。



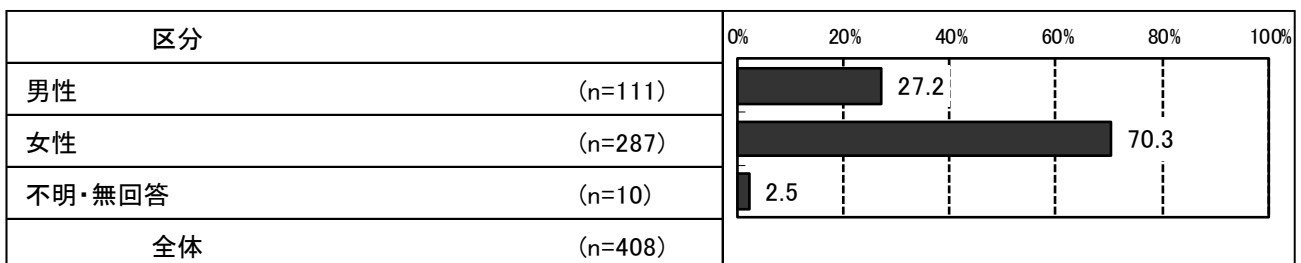
【家族等から介護を受けていると答えた人のみ】主な介護者（問4：単数回答）

「子」が48.5%で最も多く、次いで「配偶者」が33.1%、「子の配偶者」が7.6%が続いています。



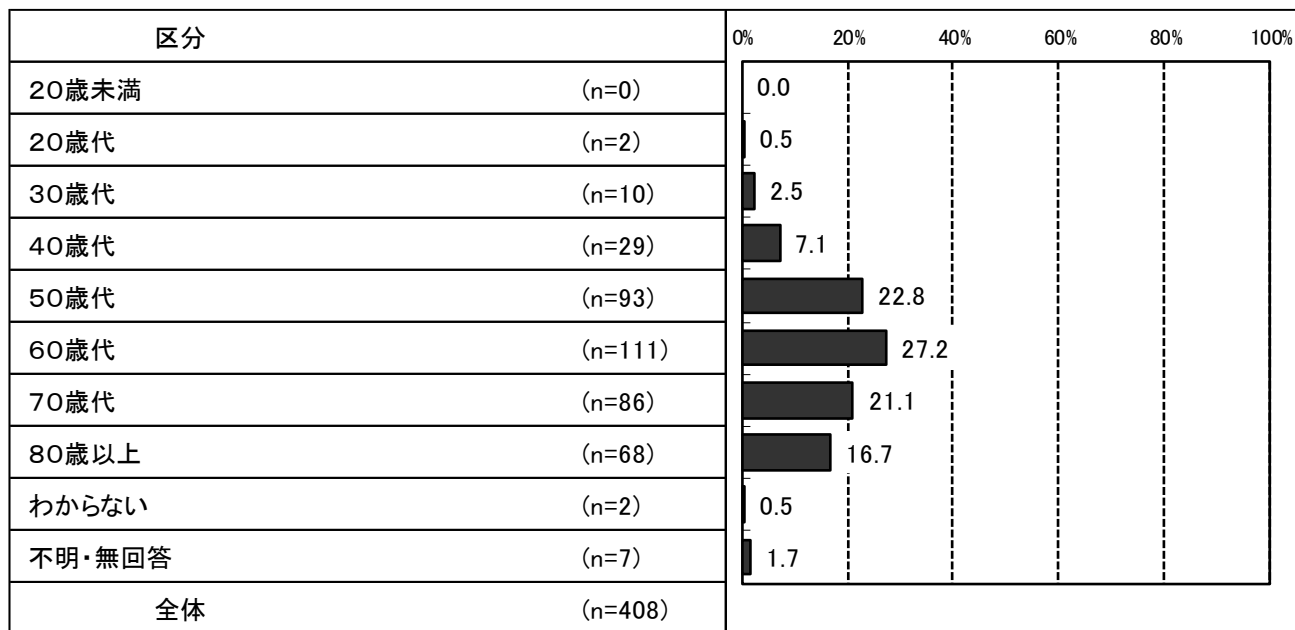
【家族等から介護を受けていると答えた人のみ】主な介護者の性別（問5：単数回答）

「女性」が70.3%、「男性」が27.2%となっています。



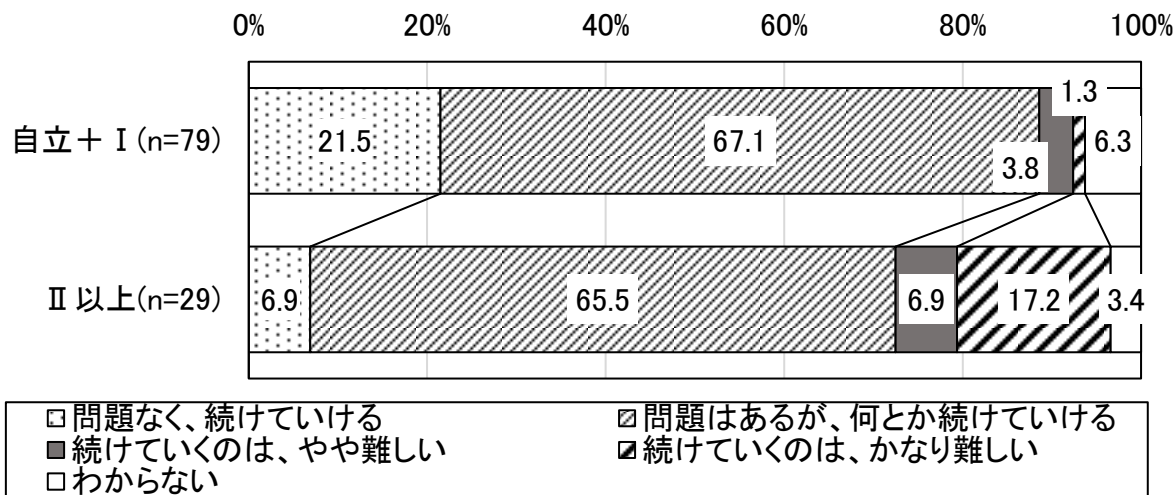
【家族等から介護を受けていると答えた人のみ】主な介護者の年齢（問6：単数回答）

「60歳代」が27.2%で最も多く、次いで「50歳代」が22.8%、「70歳代」が21.1%が続いています。



●認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

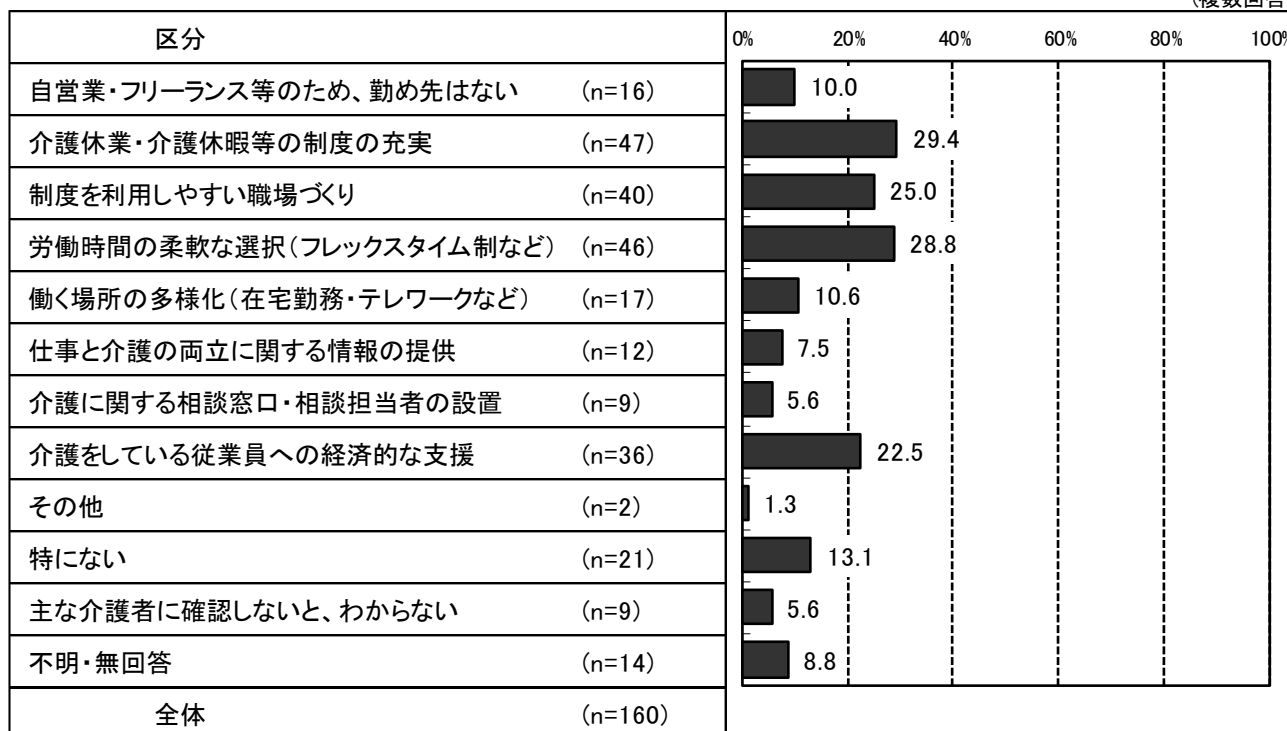
介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、Ⅱ以上では「続けていくのは、かなり難しい」が他と比べて多くなっています。



【主な介護者が働いていると答えた人のみ】 今後の仕事と介護の両立にあたり、勤め先からあれば効果的だと思う支援（問 33：3つまでの複数回答）

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 29.4%で最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 28.8%、「制度を利用しやすい職場づくり」が 25.0%で続いています。

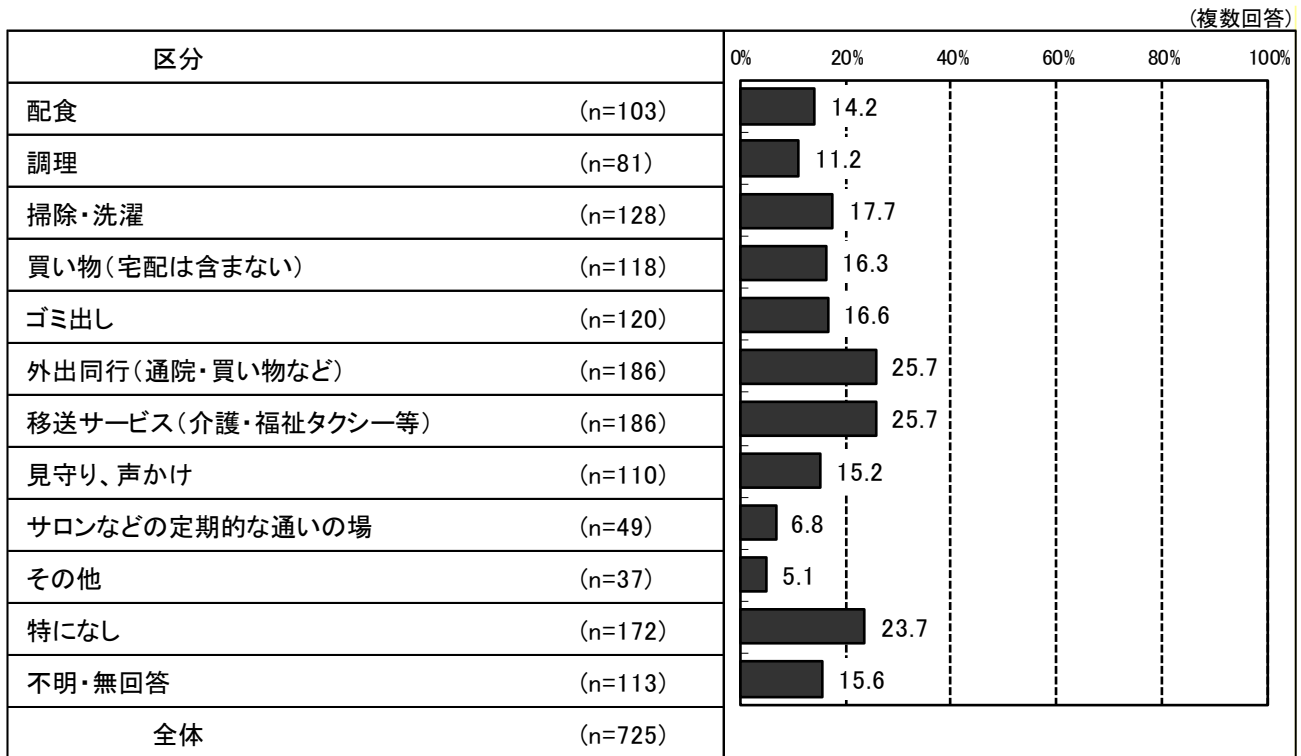
(複数回答)



3. 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて

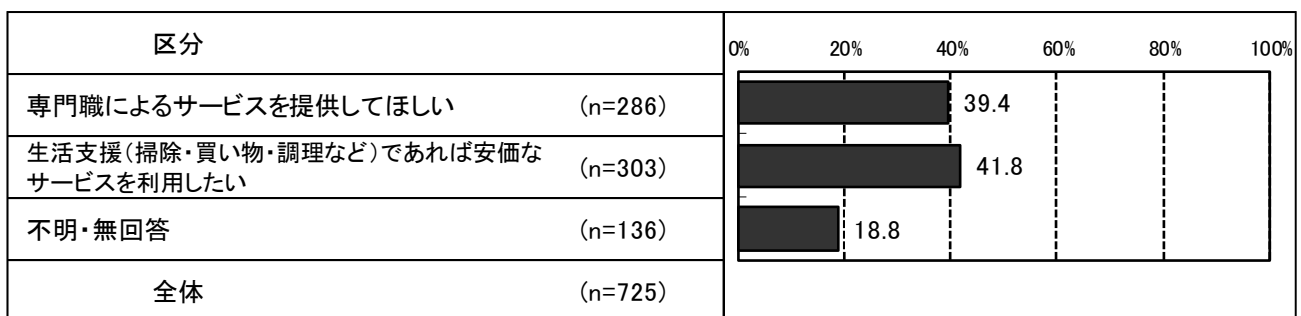
在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（問 10：複数回答）

「外出同行（通院・買い物など）」と「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が、ともに 25.7%で最も多く、次いで「特になし」が 23.7%、「掃除・洗濯」が 17.7%で続いています。



訪問介護（ヘルパー）サービスについての希望（問 26：単数回答）

「生活支援（掃除・買い物・調理など）であれば安価なサービスを利用したい」が 41.8%、「専門職によるサービスを提供してほしい」が 39.4%となっています。



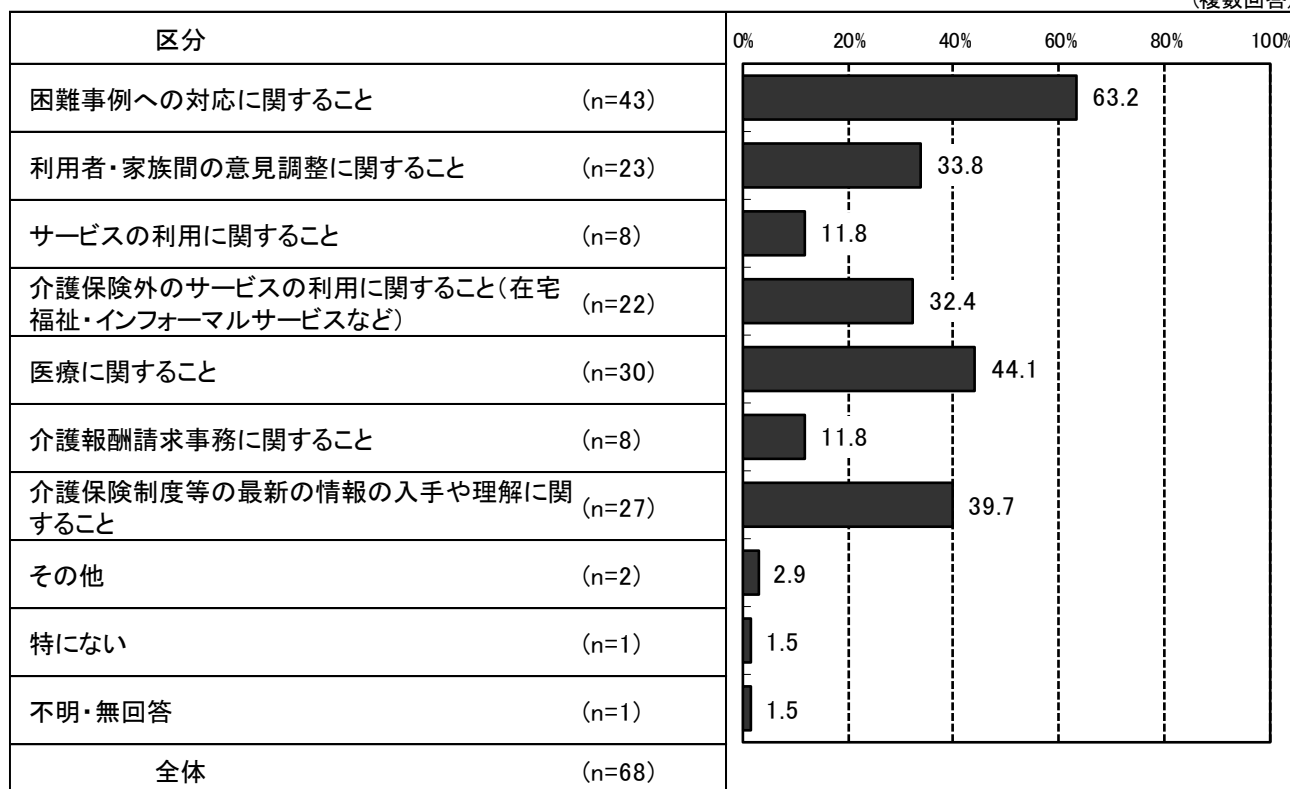
ケアマネジャー調査の結果概要

1. 業務について

業務上、わからないことや困ったこと（問10：3つまでの複数回答）

「困難事例への対応に関すること」が63.2%で最も多く、次いで「医療に関すること」が44.1%、「介護保険制度等の最新の情報の入手や理解に関すること」が39.7%で続いています。

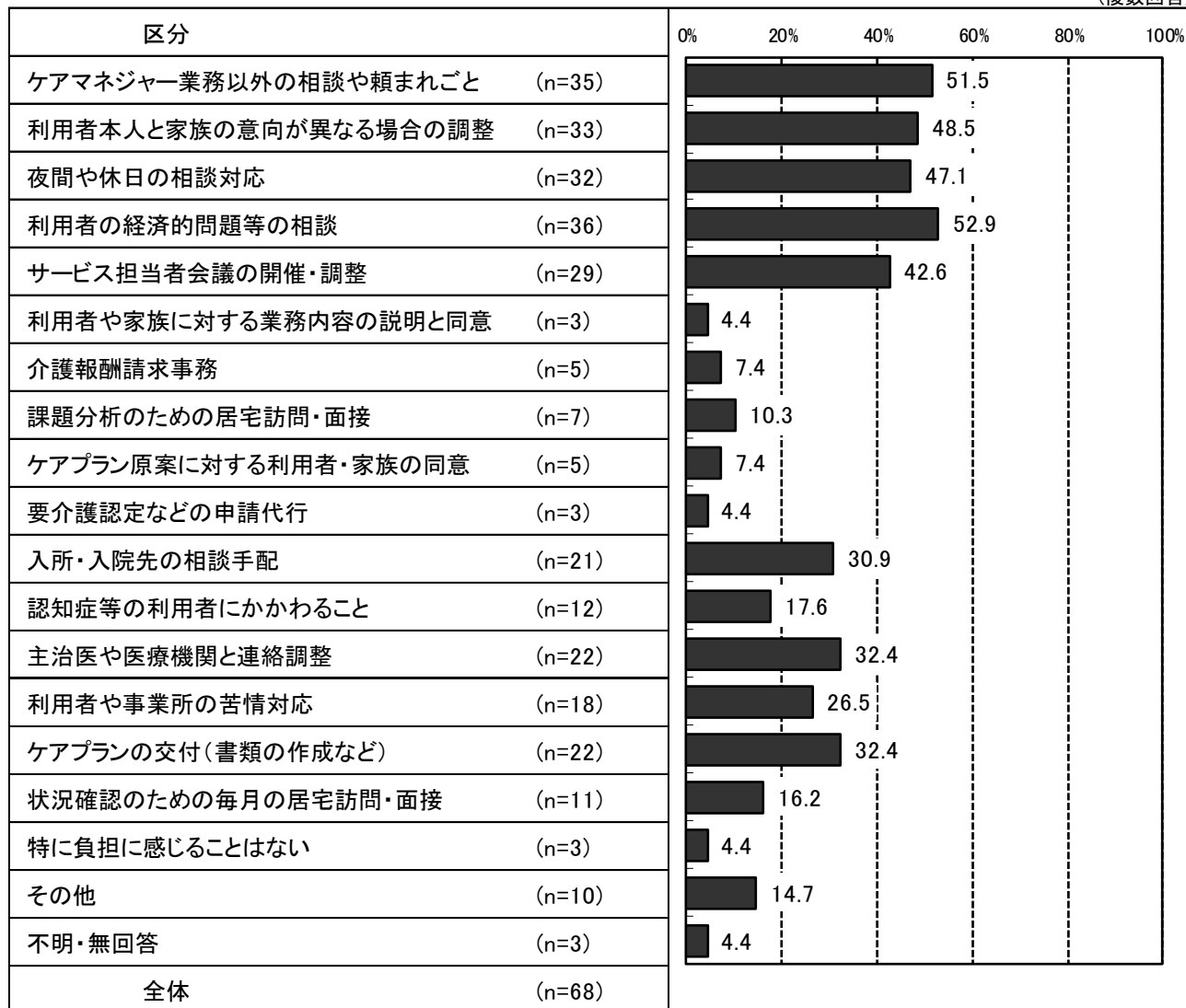
(複数回答)



ケアマネジャー業務の中で負担感を感じること（問12：複数回答）

「利用者の経済的問題等の相談」が52.9%で最も多く、次いで「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」が51.5%、「利用者本人と家族の意向が異なる場合の調整」が48.5%が続いています。

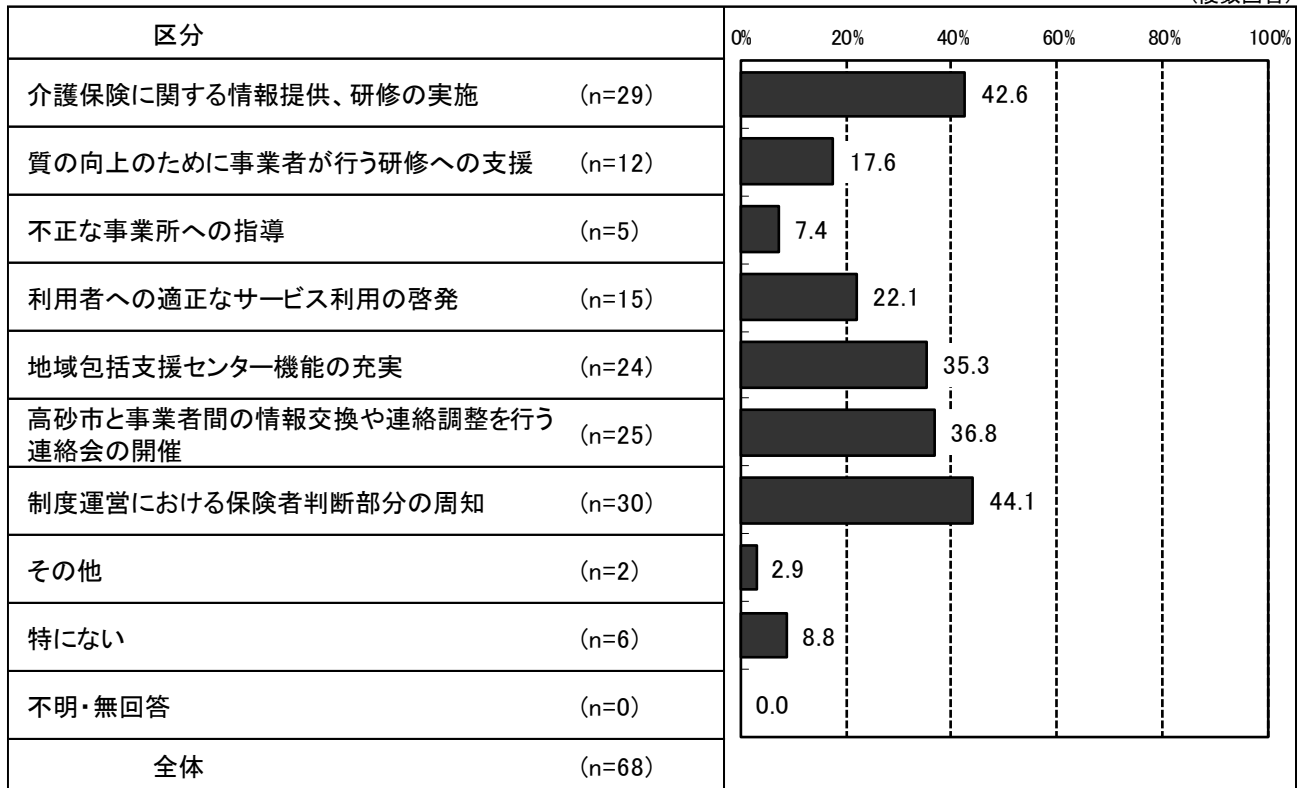
(複数回答)



高砂市にケアマネジャーとして望むこと（問 21：3つまでの複数回答）

「制度運営における保険者判断部分の周知」が44.1%で最も多く、次いで「介護保険に関する情報提供、研修の実施」が42.6%、「高砂市と事業者間の情報交換や連絡調整を行う連絡会の開催」が36.8%が続いています。

(複数回答)

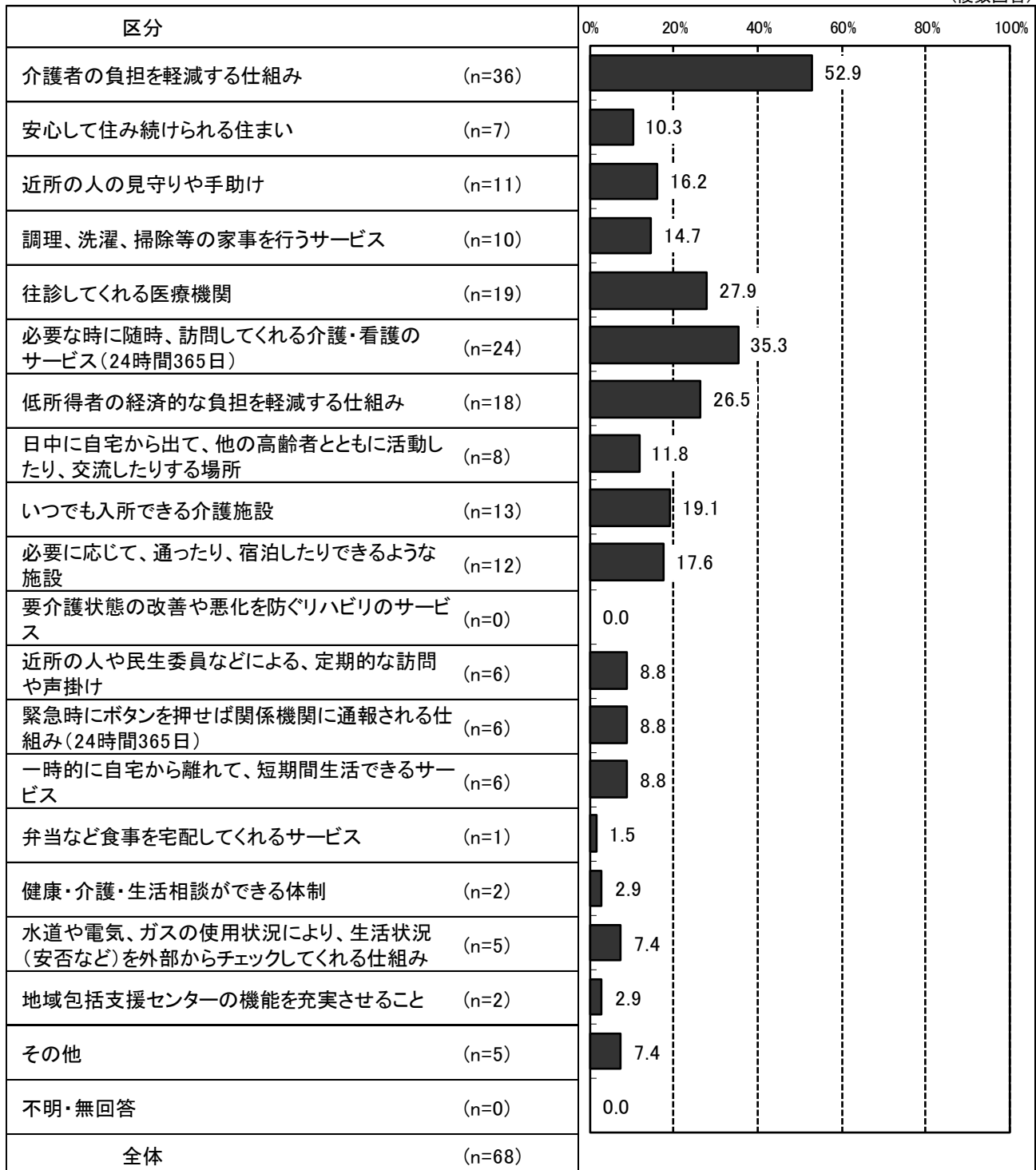


2. 高砂市のサービスについて

要介護者等が在宅で暮らし続けるために特に充実させるべきこと（問18：3つまでの複数回答）

「介護者の負担を軽減する仕組み」が52.9%で最も多く、次いで「必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービス（24時間365日）」が35.3%、「往診してくれる医療機関」が27.9%が続いています。

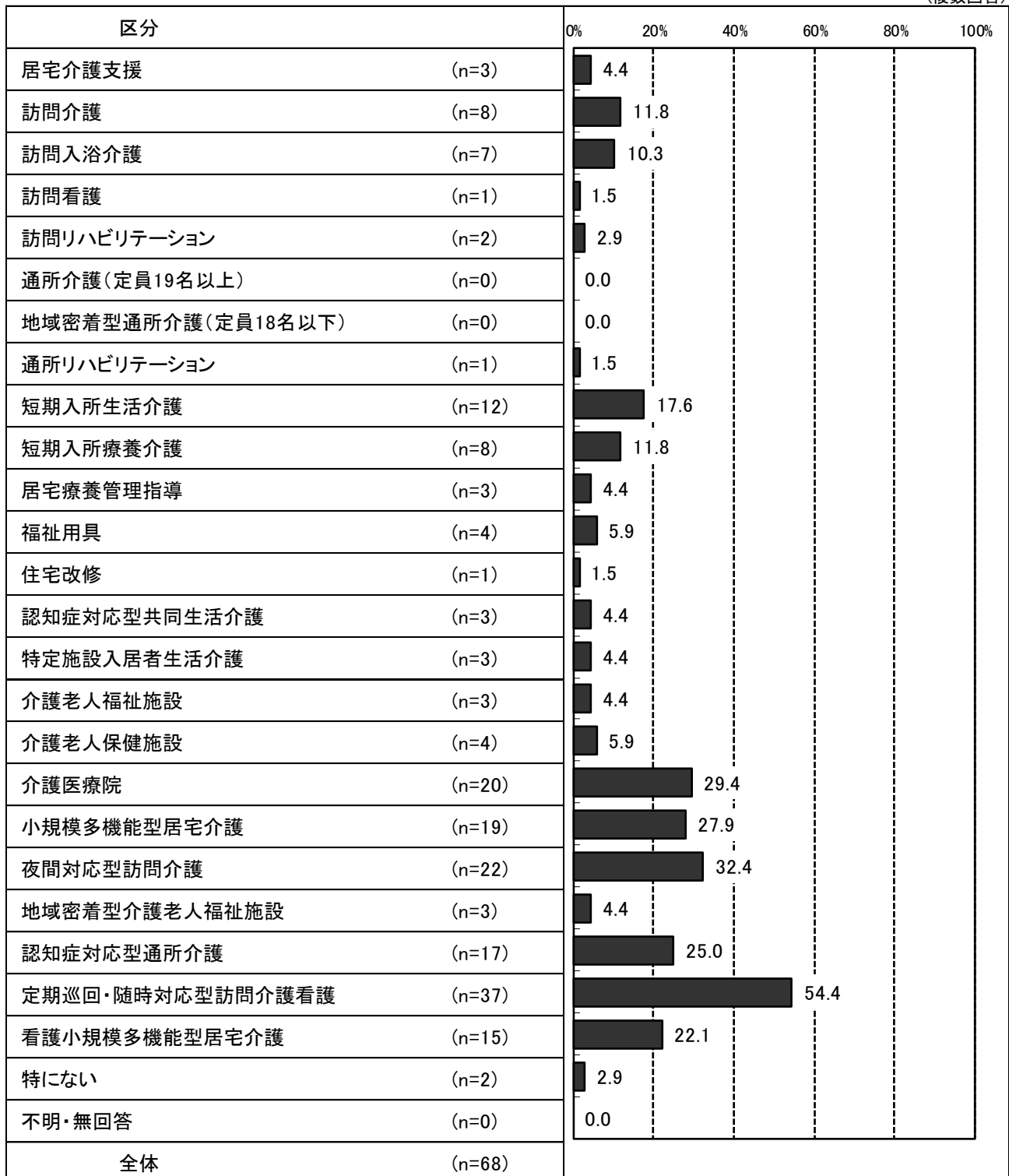
(複数回答)



高砂市に特に不足していると感じるサービス（予防含む）（問19：5つまでの複数回答）

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が54.4%で最も多く、次いで「夜間対応型訪問介護」が32.4%、「介護医療院」が29.4%が続いています。

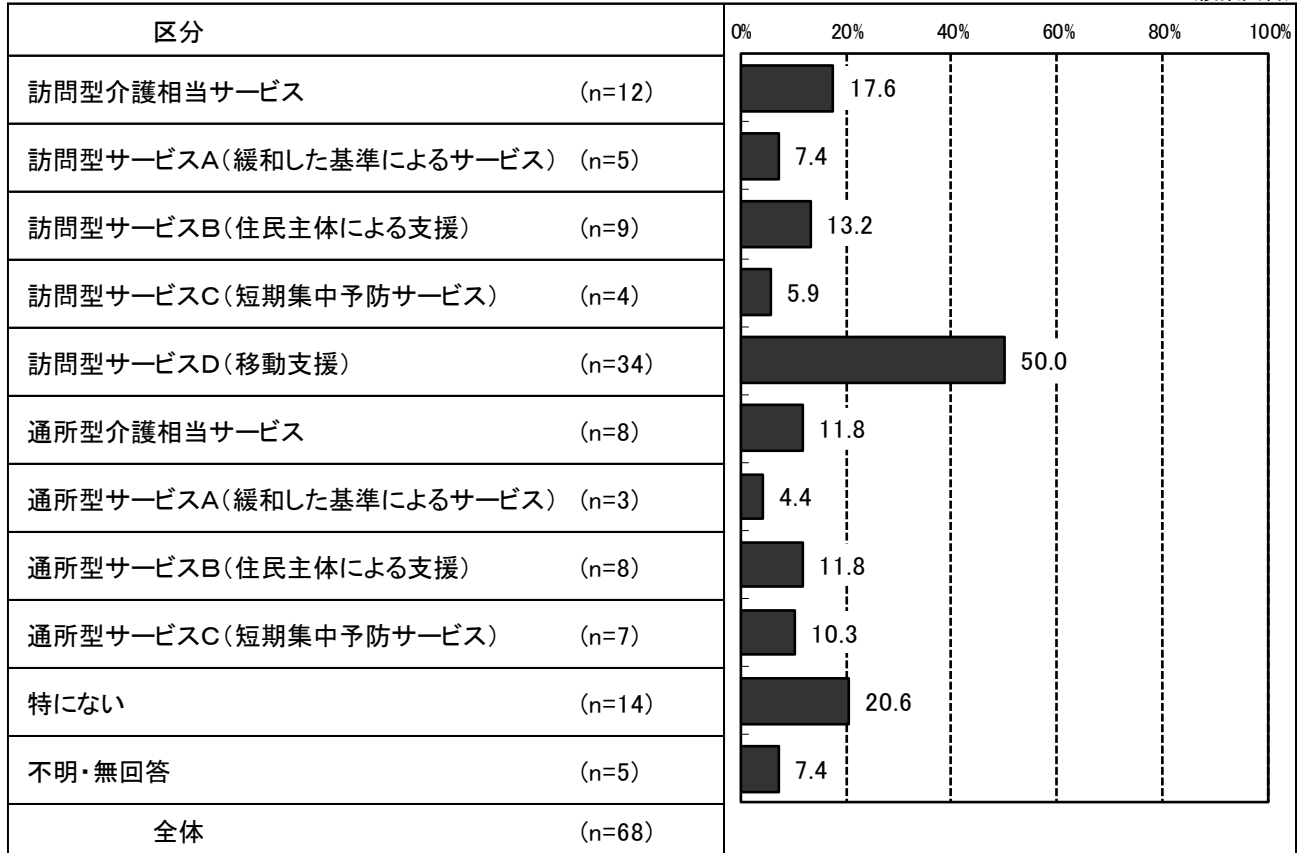
(複数回答)



高砂市の総合事業サービスで特に充実させるべきもの（問 20：3つまでの複数回答）

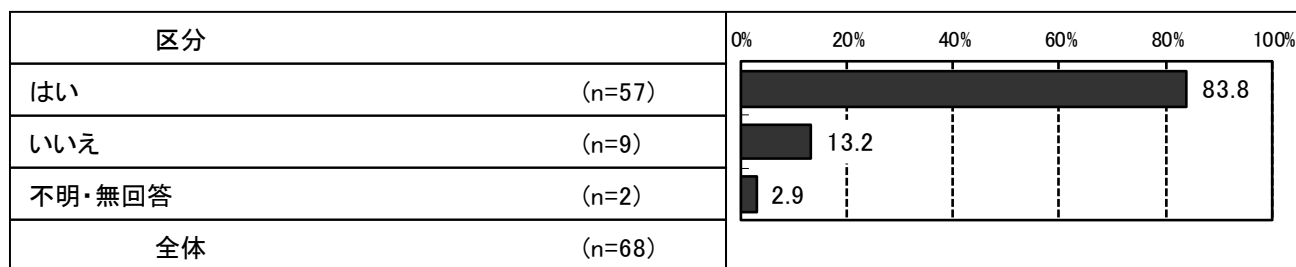
「訪問型サービスD（移動支援）」が50.0%で最も多く、次いで「特にない」が20.6%、「訪問型介護相当サービス」が17.6%で続いています。

(複数回答)



インフォーマルサービスをケアプランに位置付けた経験の有無（問 22：単数回答）

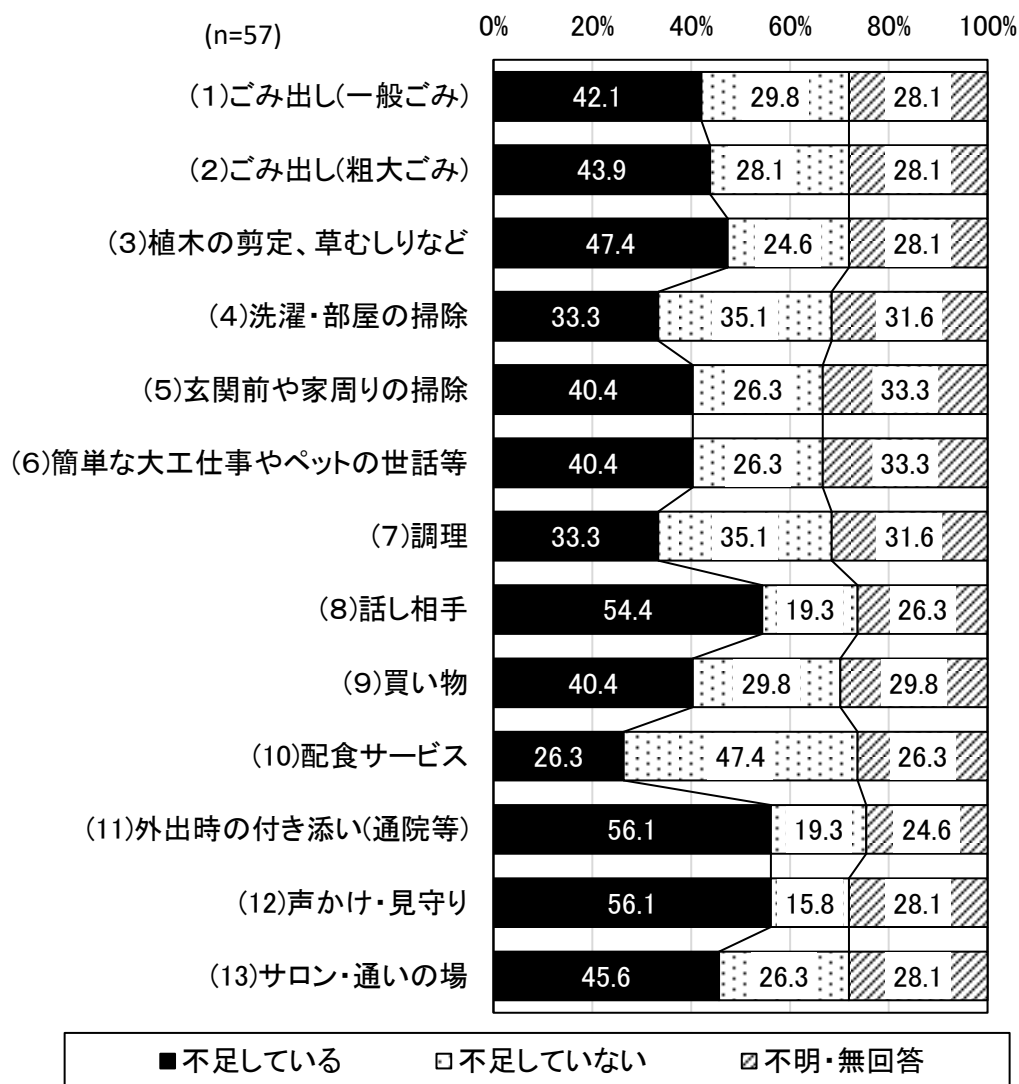
「はい」が83.8%、「いいえ」が13.2%となっています。



【インフォーマルサービスをケアプランに位置付けたことがあると答えた人のみ】

以下のインフォーマルサービスの不足状況（問 22-1：それぞれ単数回答）

「(11)外出時の付き添い(通院等)」と「(12)声かけ・見守り」が、ともに56.1%で最も多く、次いで「(8)話し相手」が54.4%、「(3)植木の剪定、草むしりなど」が47.4%で続いています。

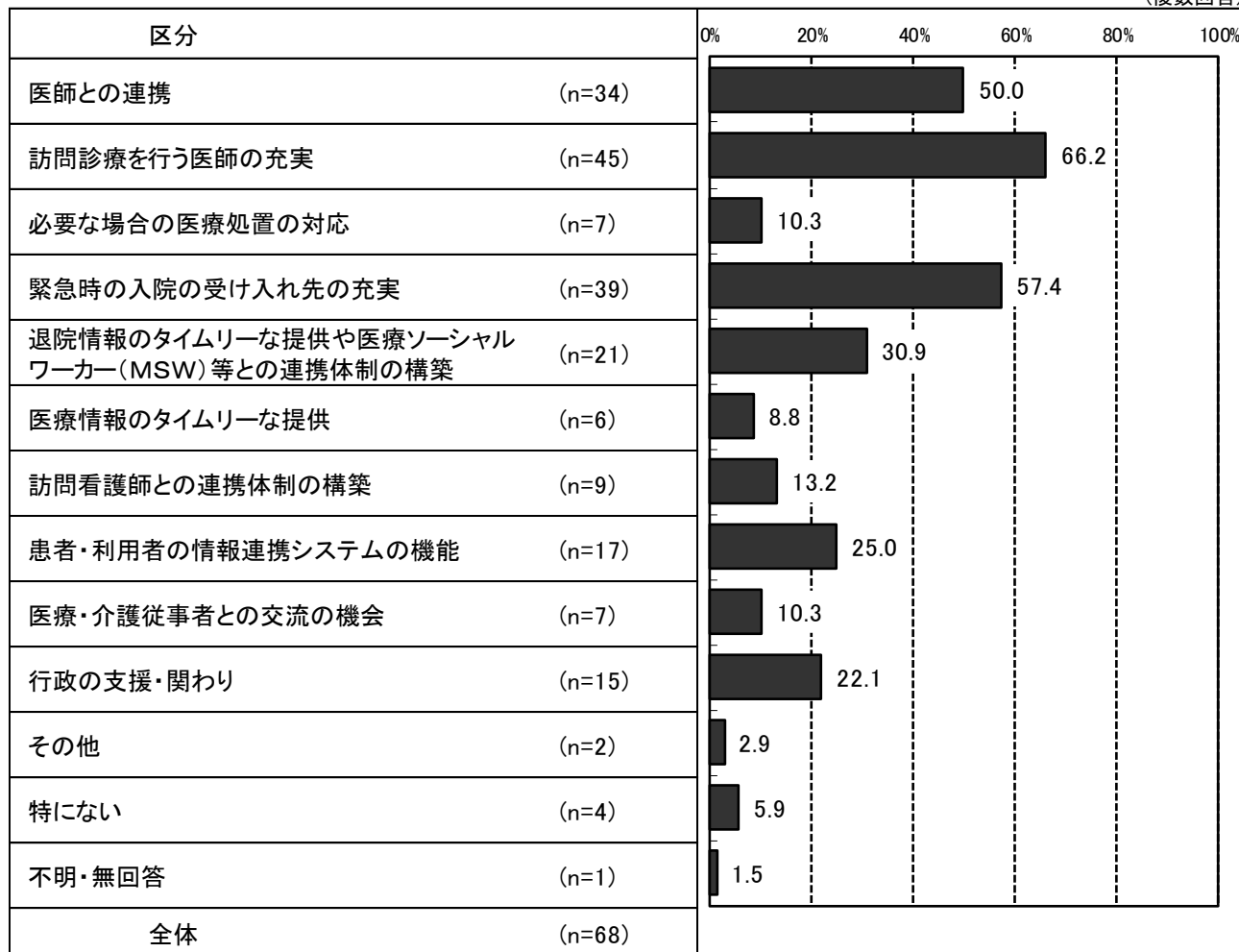


3. 連携について

医療連携で充実させるべきこと（問 25：5つまでの複数回答）

「訪問診療を行う医師の充実」が66.2%で最も多く、次いで「緊急時の入院の受け入れ先の充実」が57.4%、「医師との連携」が50.0%が続いています。

(複数回答)



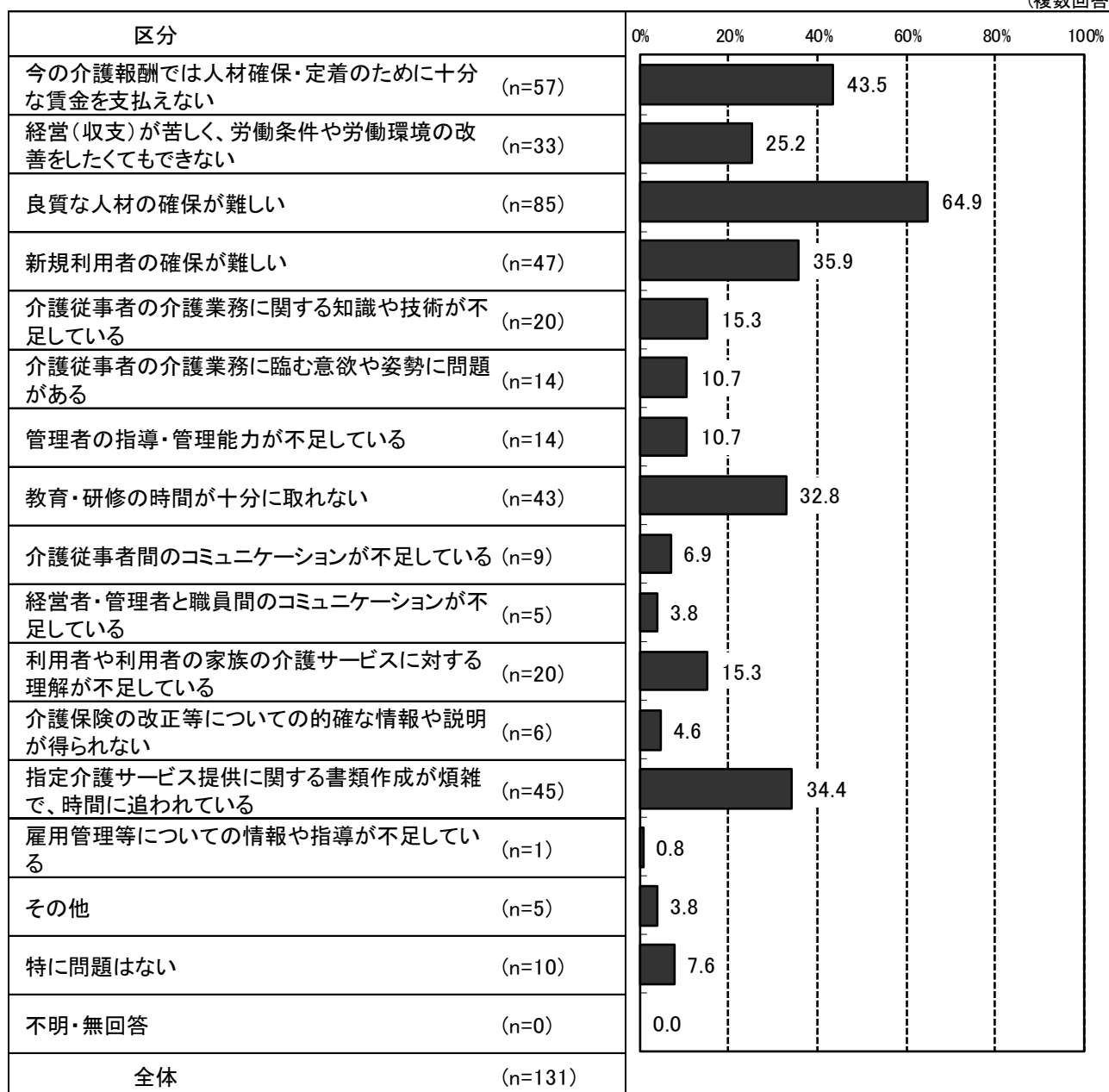
事業所調査の結果概要

1. 運営について

事業を運営する上で問題等（問4：5つまでの複数回答）

「良質な人材の確保が難しい」が64.9%で最も多く、次いで「今の介護報酬では人材確保・定着のために十分な賃金を支払えない」が43.5%、「新規利用者の確保が難しい」が35.9%で続いています。

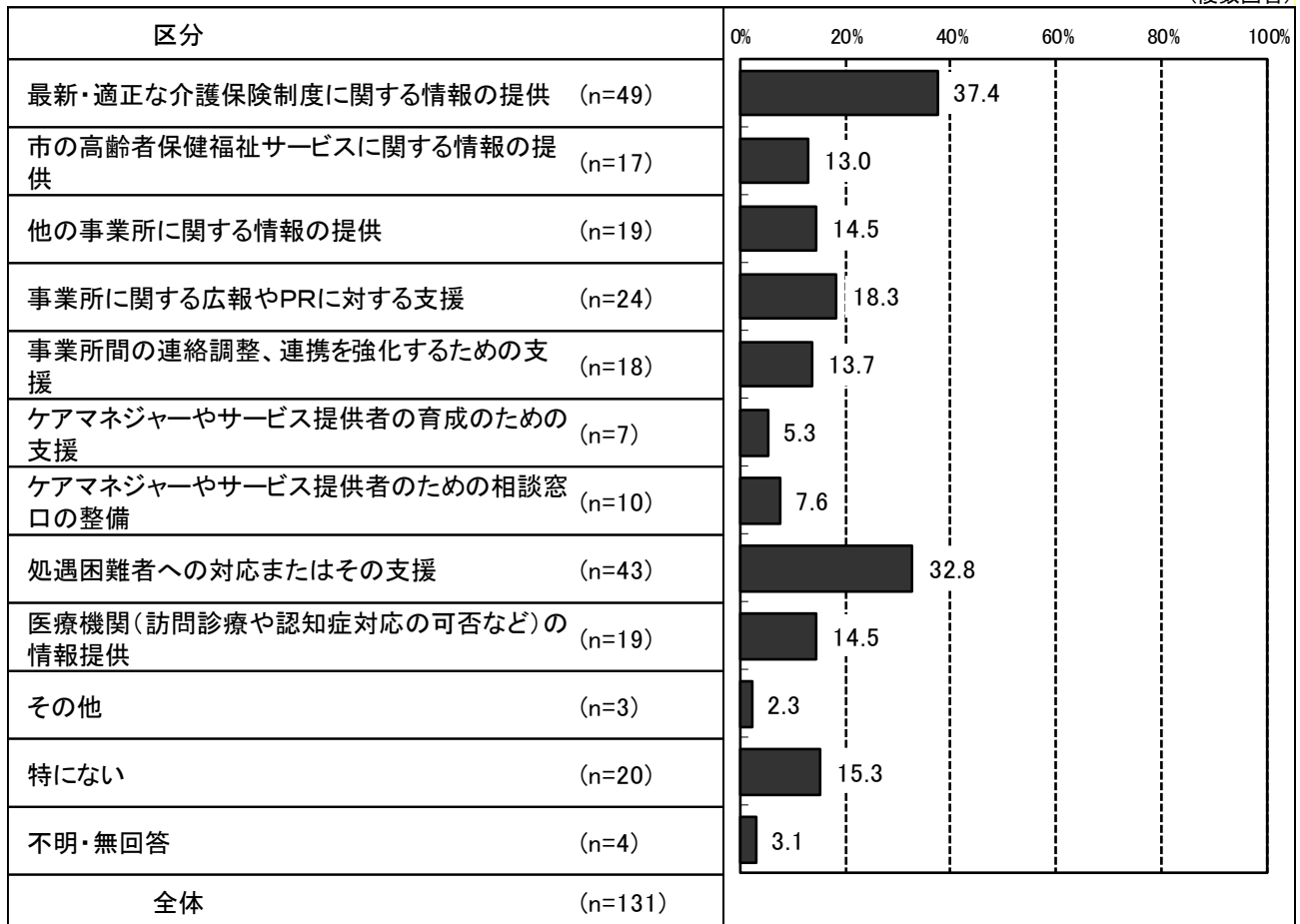
(複数回答)



事業を行ううえで、高砂市に対する要望（問 17：3つまでの複数回答）

「最新・適正な介護保険制度に関する情報の提供」が 37.4%で最も多く、次いで「処遇困難者への対応またはその支援」が 32.8%、「事業所に関する広報やPRに対する支援」が 18.3%が続いています。

(複数回答)

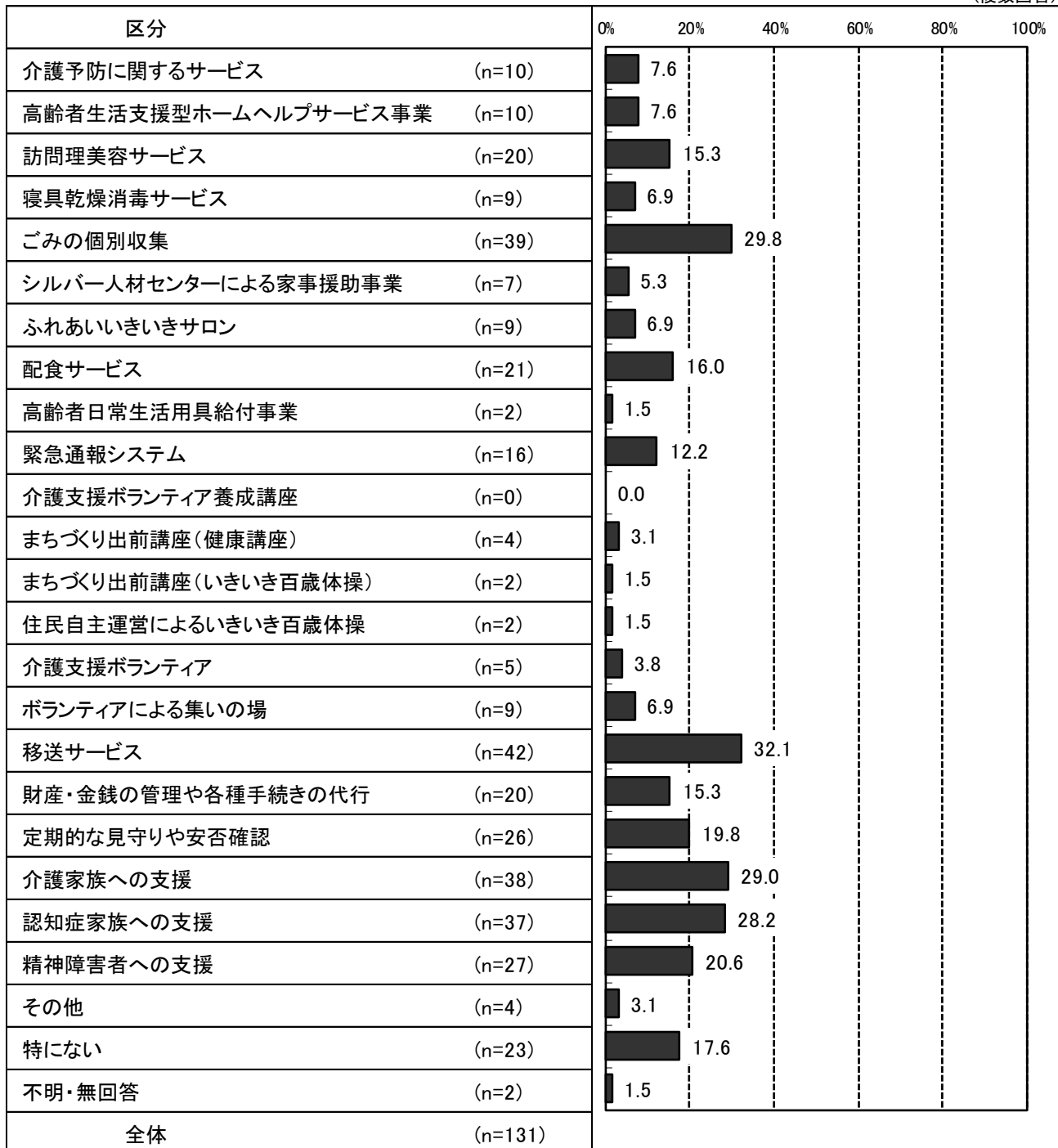


2. 介護保険サービス以外の高齢者保健福祉サービスや活動について

より充実が必要な介護保険サービス以外の高齢者保健福祉サービスや活動（問3：5つまでの複数回答）

「移送サービス」が32.1%で最も多く、次いで「ごみの個別収集」が29.8%、「介護家族への支援」が29.0%で続いています。

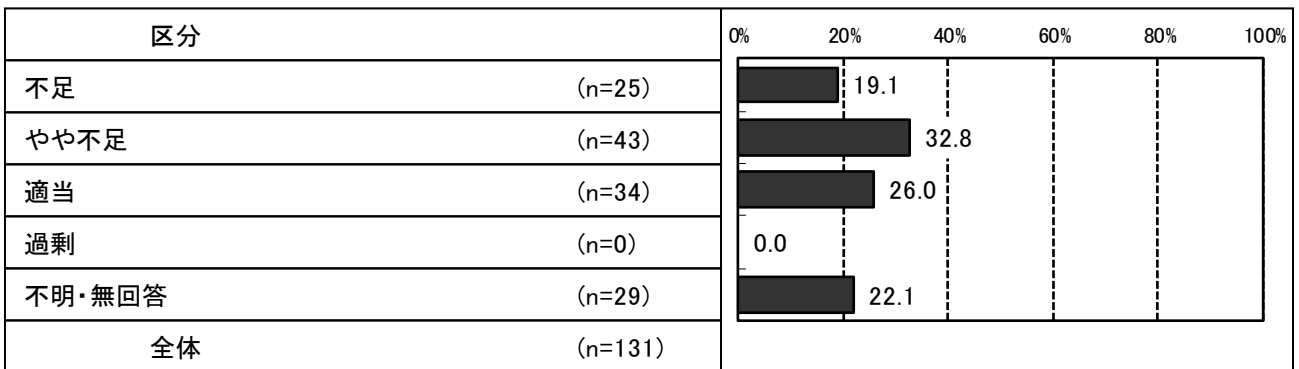
(複数回答)



3. 介護人材について

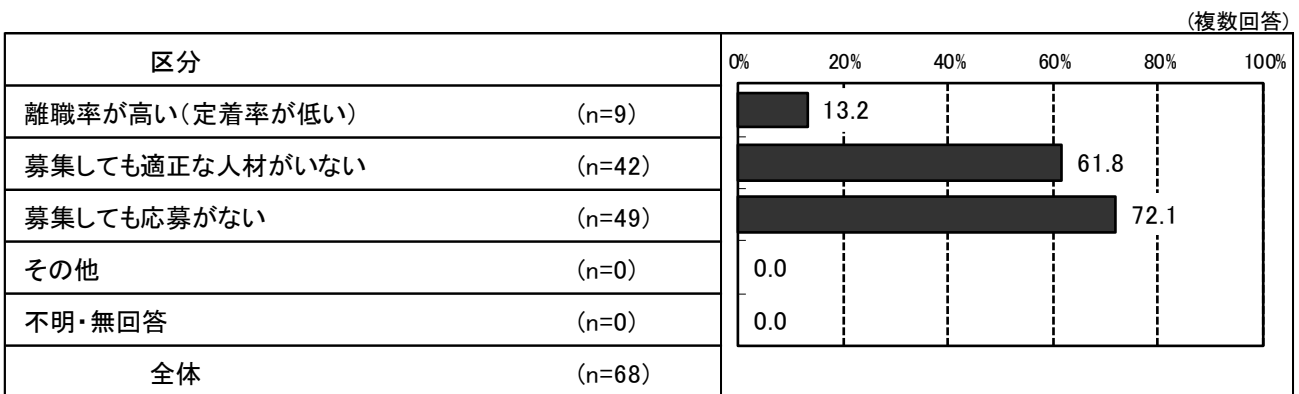
従事者の過不足の状況（問 11：単数回答）

「やや不足」が 32.8%で最も多く、次いで「適当」が 26.0%、「不足」が 19.1%が続いています。



【従事者が不足していると答えた事業所のみ】不足している理由（問 11-2：複数回答）

「募集しても応募がない」が 72.1%で最も多く、次いで「募集しても適正な人材がない」が 61.8%、「離職率が高い（定着率が低い）」が 13.2%が続いています。



介護人材確保・定着等に対する支援について効果が高いと思うもの（問9：5つまでの複数回答）

「介護未経験者に対する研修支援」が 32.8%で最も多く、次いで「介護人材キャリアアップ研修に対する支援」が 28.2%、「地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進」が 26.7%で続いています。

